

経済調査月報（2025年11月）

《 内 容 》

I 概況

1. 日銀短観
2. 地域経済報告－さくらレポート－
3. IMF世界経済見通し
4. 経済産業局基調判断

II 主要経済指標

1. 生産・在庫
2. 消費
3. 住宅・設備投資
4. 輸出入
5. 雇用
6. 企業倒産件数
7. 物価
8. エネルギー需要
9. 為替相場の推移
10. 日経平均株価の推移
11. 原油価格の推移
12. 長短金利の推移

III 国内各地域の概況

1. 地域別業況判断D I
2. 鉱工業生産指数
3. 有効求人倍率

IV 中部圏各県の経済概況

1. 要点総括
2. 各県主要経済指標

V 海外主要経済動向

1. 実質GDP成長率
2. 鉱工業生産
3. 失業率

VI 特集

1. CEATEC2025 視察報告

I 概況 (注：情勢認識は、依拠する資料の公表時点に基づく。)

1. 日銀短観 (10/1 日本銀行)

日銀は10月1日に9月の全国企業短期経済観測調査(短観)を発表した。

企業の景況感を示す業況判断は、全国の全規模合計では、全産業がプラス15(前回調査より変化なし)、製造業がプラス7(同変化なし)、非製造業がプラス21(同変化なし)となった。東海3県はプラス17(前回調査より3ポイント上昇)、静岡はプラス5(前回調査より変化なし)、長野はプラス2(前回調査より1ポイント減)となった。

製造業は、全国がプラス7であるのに対し、東海3県は13(前回調査より4ポイント上昇)に回復し、静岡はマイナス8(同1ポイント下落)と若干下落し、長野はマイナス9(同変化なし)となった。

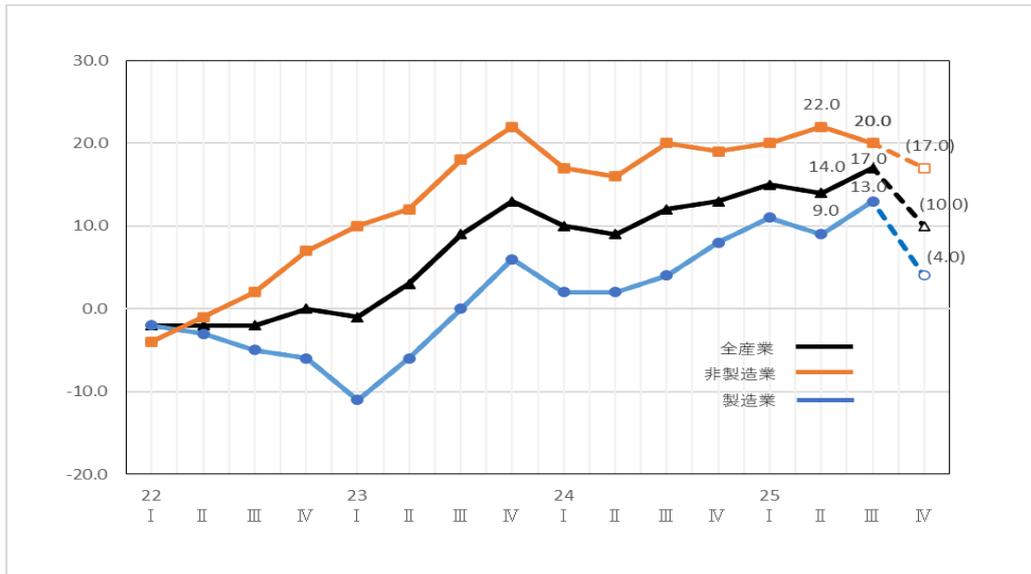
非製造業は、全国がプラス21であるのに対し、東海3県はプラス20(前回調査より2ポイント減)と若干悪化し、静岡はプラス18(同2ポイント上昇)、長野はプラス13(同2ポイント減)と、静岡以外は前回調査に比べて悪化した。

<各産業別の業況判断DI> 「良い」の構成比－「悪い」の構成比

		2025年6月	2025年9月	先行き
全産業	全国	15	15	10
	東海3県	14	17	10
	静岡	5	5	1
	長野	3	2	-6
製造業	全国	7	7	5
	東海3県	9	13	4
	静岡	-7	-8	-5
	長野	-9	-9	-14
非製造業	全国	21	21	15
	東海3県	22	20	17
	静岡	16	18	7
	長野	15	13	4

(出所) 日本銀行 全国企業短期観測調査(2025年9月)
 日本銀行 名古屋支店「東海3県の短観」(2025年9月)
 日本銀行 静岡支店「静岡県の短観」(2025年9月)
 日本銀行 松本支店「長野県の短観」(2025年9月)

東海 3 県における製造業の業況判断をみると、自動車はプラス 15（前回調査より 10 ポイント低下）と悪化した。金属製品、鉄鋼、食料品、電気機械などが上昇したことから、全体ではプラス 13（前回調査より 4 ポイント上昇）と改善した。



〔調査の概要〕

- ◎調査時期 : 2025年8月27日～9月30日
- ◎対象 : 635社（東海3県：愛知・岐阜・三重）
- ◎回答率 : 99.7%

	回答社数 ウェイト (%)	2025年6月調査		2025年9月調査			
		最近	先行き	最近	変化幅	先行き	変化幅
製造業	100	9	2	13	4	4	-9
大企業	21	12	4	15	3	7	-8
中堅企業	28	10	-1	17	7	0	-17
中小企業	51	6	3	10	4	6	-4
食料品	6	-9	-9	5	14	9	4
繊維	6	-5	0	0	5	-5	-5
木材・木製品	3	0	9	9	9	-9	-18
紙・パルプ	2	13	25	12	-1	0	-12
化学	5	24	18	29	5	29	0
窯業・土石製品	8	10	0	11	1	-7	-18
鉄鋼	8	-14	-25	0	14	-10	-10
非鉄金属	3	27	0	18	-9	9	-9
金属製品	6	5	-5	30	25	5	-25
はん用機械	4	0	-8	0	0	-8	-8
生産用機械	9	18	7	17	-1	3	-14
電気機械	9	-3	-3	7	10	0	-7
自動車	12	25	15	15	-10	12	-3
その他輸送用機械	5	42	42	44	2	39	-5
非製造業	100	22	13	20	-2	17	-3
大企業	22	39	35	40	1	36	-4
中堅企業	28	17	6	18	1	16	-2
中小企業	51	16	10	13	-3	9	-4
建設	14	19	17	21	2	21	0
不動産	10	21	14	25	4	27	2
物品賃貸	7	10	5	5	-5	0	-5
卸売	15	27	12	25	-2	11	-14
小売	8	32	18	22	-10	27	5
運輸・郵便	12	26	18	26	0	26	0
情報通信	8	12	8	21	9	8	-13
電気・ガス	4	27	27	27	0	27	0
対事業所サービス	10	3	-4	0	-3	-10	-10
対個人サービス	6	47	41	59	12	53	-6
宿泊・飲食サービス	6	12	12	-6	-18	0	6
全産業		14	7	17	3	10	-7

ソフトウェア・研究開発を含む設備投資額（除く土地投資額）の2025年度計画は、全規模全産業で東海3県は前年度比9.7%（前回調査より0.3ポイント減）、静岡は同14.0%（同2.6ポイント減）、長野は同8.4%（同1.5ポイント増）だった。

<ソフトウェア・研究開発を含む設備投資額（除：土地投資額）>

2025年度計画

（前年度比：%、[]内は前回調査）

	全国		東海3県		静岡		長野	
製造業	[9.7]	10.4	[8.0]	7.6	[18.3]	16.6	[11.7]	11.8
大企業	[8.8]	9.9	[7.8]	7.4	[n.a]	n.a	[n.a]	n.a
中堅企業	[15.3]	14.5	[17.5]	14.7	[n.a]	n.a	[n.a]	n.a
中小企業	[7.0]	7.5	[4.6]	6.8	[n.a]	n.a	[n.a]	n.a
非製造業	[7.8]	8.6	[16.6]	16.8	[10.3]	4.0	[23.0]	▲9.7
大企業	[11.8]	12.3	[18.6]	18.5	[n.a]	n.a	[n.a]	n.a
中堅企業	[3.2]	5.4	[2.6]	4.1	[n.a]	n.a	[n.a]	n.a
中小企業	[▲2.1]	▲1.3	[4.3]	7.4	[n.a]	n.a	[n.a]	n.a
全産業	[8.7]	9.5	[10.0]	9.7	[16.6]	14.0	[6.9]	8.4

（注）静岡、長野の企業規模別の計数は入手不可のため「n.a.」。

（出所）日本銀行 全国企業短期観測調査（2025年10月）

日本銀行 名古屋支店「東海3県の短観」（2025年10月）

日本銀行 静岡支店「静岡県の短観」（2025年10月）

日本銀行 松本支店「長野県の短観」（2025年10月）

2. 地域経済報告-さくらレポート- (2025年10月) [10/6 日本銀行]

日本銀行は、10月6日に10月の地域経済報告を発表した。一部に弱めの動きもみられるが、すべての地域で、景気は「緩やかに回復」、「持ち直し」、「緩やかに持ち直し」としている。

項目別では、「個人消費」は全地域において物価上昇の影響などがみられるものの、「増加」「回復」「持ち直し」とした。「生産」については、すべての地域において前回判断を維持し、東海は「増加基調にある」とし、その他の地域では「横ばい」、「一部に弱めの動き」とした。「設備投資」については、すべての地域において「増加」「高水準で推移」と判断。

輸出・生産に関しては、これまで米国の関税引き上げによるコスト増加分を自社で吸収していたが、日米間の関税率の合意を受け、米国の取引先との関税負担に関する交渉を進める企業がみられている。

	【2025/7月判断】	前回との比較	【2025/10月判断】
北海道	一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している	↘	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに持ち直している
東北	持ち直している	→	持ち直している
北陸	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	→	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
関東 甲信越	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	→	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
東海	緩やかに回復している	→	緩やかに回復している
近畿	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	→	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している
中国	緩やかな回復基調にある	→	緩やかな回復基調にある
四国	緩やかに持ち直している	→	持ち直している
沖縄・九州	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している	→	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している

出所：日本銀行「地域経済報告-さくらレポート- (2025年10月)」 「各地域の景気判断の概要」

3. IMFの世界経済見通し（前年比、%）

IMFは世界経済見通し（2025年10月）を発表した。世界における実質 GDP 成長率は、2025年は3.2%、2026年は3.1%と、7月予測から2025年は0.2%の上方修正、2026年は判断を据え置いた。

日本の実質 GDP 成長率は、2025年は1.1%、2026年は0.6%と、7月予測から2025年は0.4%ポイント、2026年は0.1%の上方修正となった。

なお、本見通しにおいては、7月公表の見通しと比較すると改善しているが、政策転換前である2024年10月見通しで算出した予測を累積0.2%ポイント下回っており、関税ショックは当初発表されていたより小さいとはいえ、不確実性と保護主義の逆風がこの景気減速に反映されている。

	実質 GDP 成長率(%)			7月予測との差(%ポイント)	
	2024年	2025年	2026年	2025年	2026年
世界	3.3	3.2	3.1	0.2	0.0
先進国	1.8	1.6	1.6	0.1	0.0
米国	2.8	2.0	2.1	0.1	0.1
ユーロ圏	0.9	1.2	1.1	0.2	▲0.1
ドイツ	▲0.5	0.2	0.9	0.1	0.0
英国	1.1	1.3	1.3	0.1	▲0.1
日本	0.1	1.1	0.6	0.4	0.1
新興・途上国	4.3	4.2	4.0	0.1	0.0
中国	5.0	4.8	4.2	0.0	0.0
インド	6.5	6.6	6.2	0.2	▲0.2

出所：IMF「世界経済見通し（2025年10月）」を基に作成

4. 経済産業局基調判断（全国、中部・関東・関西：8月）

当地域の景気は、持ち直しているものの、生産面に足踏みがみられる。
 生産動向は、主力の輸送機械は、自動車の生産は堅調であるものの、一部車種の切り替えの影響がみられることから、緩やかな持ち直しに足踏みがみられる。生産用機械は、金属工作機械などで設備投資に慎重な姿勢が続いていることから、横ばいとなっている。電子部品・デバイスは、集積回路でモバイル向けやデータセンター向けなどに動きがみられるものの、先行きの不透明感から、足踏み状態となっている。他業種を含めた複合的な要因を考慮して、全体としては5ヵ月連続で「緩やかな持ち直しに足踏みがみられる」と判断した。
 需要動向は、個人消費は持ち直している。設備投資は、東海・北陸ともに、全産業、製造業、非製造業で前年度を上回る計画となった。住宅投資は新設住宅着工件数が5ヵ月連続で前年同月を下回った。輸出は、4ヵ月連続で前年同月を下回った。雇用は有効求人倍率が2ヵ月ぶりに低下した。
 先行きについては、為替変動や海外経済の動向、不安定な世界情勢等によって引き続き不透明な状況が続いており、今後の動向を注視していく必要がある。

項目	中部		全国		関東		関西	
	判断変化	基調判断	判断変化	基調判断	判断変化	基調判断	判断変化	基調判断
景気全般	→	持ち直しているものの、生産面に足踏みがみられる	↗	景気は、米国の通商政策等による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している	→	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	→	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している
生産	→	緩やかな持ち直しに足踏みがみられる	→	横ばいとなっている	→	一進一退ながら弱含み	→	弱含みで推移
個人消費	→	持ち直している	↗	持ち直しの動きがみられる	→	緩やかな上昇傾向にある	→	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに改善している
設備投資	→	東海・北陸ともに全産業・製造業・非製造業において、前年度を上回る計画となっている	↘	緩やかに持ち直している	→	前年度を上回る見込み	→	増加している
住宅投資	→	新設住宅着工件数が5ヵ月連続で前年同月を下回った	→	建築物省エネ法等改正に伴う駆け込み需要の反動もあり、このところ弱含んでいる	→	4ヵ月連続で前年同月を下回った	↘	弱含みで推移
輸出	→	4ヵ月連続で前年同月を下回った	→	おおむね横ばいとなっている	↘	20ヵ月ぶりに前年同月を下回った	→	輸出は前年同月を上回った
雇用	↘	有効求人倍率が2ヵ月ぶりに低下した	→	改善の動きがみられる	→	緩やかに改善している	→	緩やかに持ち直している

*判断変化：基調判断の前回月報からの変化の方向を示す

↗：上方修正

→：前回と同じ

↘：下方修正

（資料）中部：中部経済産業局「最近の管内総合経済動向」（10月16日）

全国：内閣府「月例経済報告」（9月29日）

関東：関東経済産業局「管内の経済動向」（10月22日）

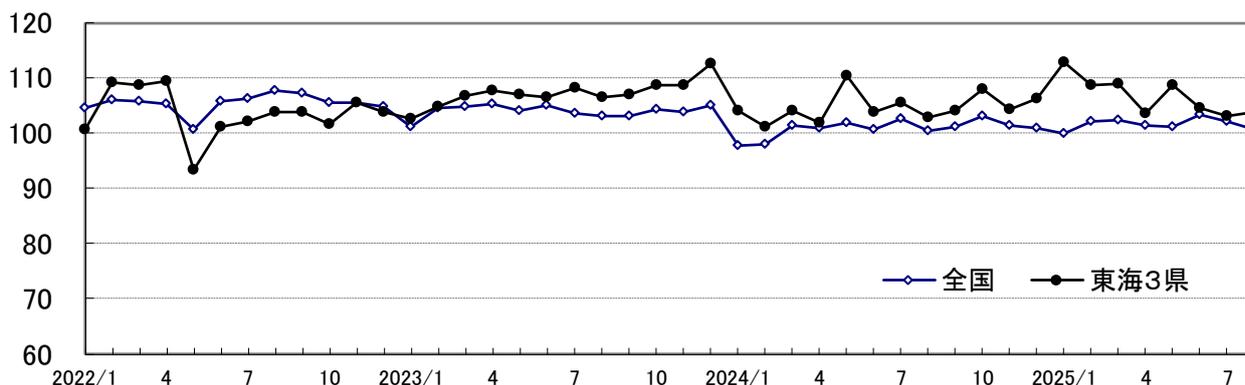
関西：近畿経済産業局「近畿経済の動向」（10月16日）

Ⅱ 主要経済指標

1. 生産・在庫

① 鉱工業生産指数 (2020年=100)

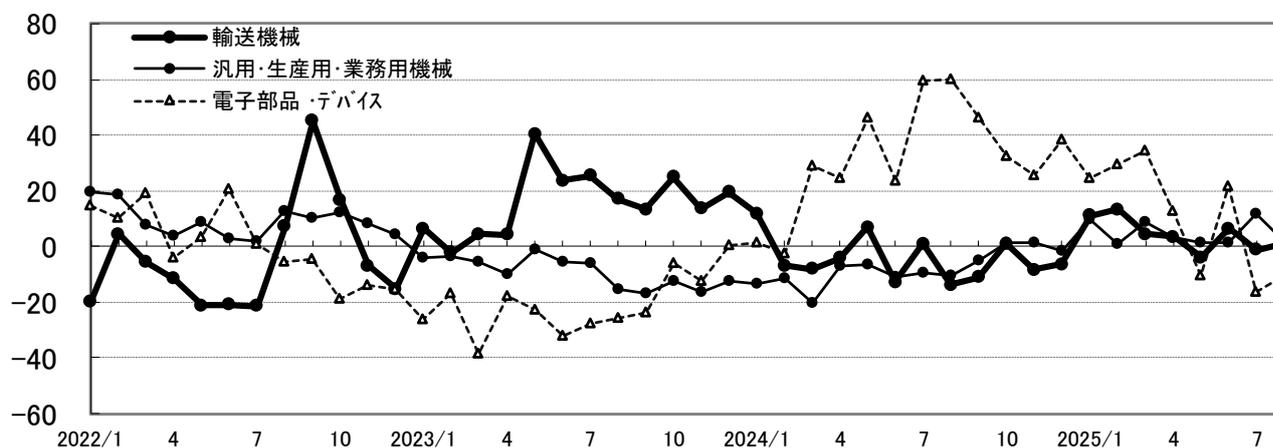
10月16日



(資料) 「管内鉱工業の動向」 (中部経済産業局)、東海3県：愛知、岐阜、三重
「鉱工業生産・出荷・在庫指数」 (経済産業省)

② 鉱工業生産指数 <<主要業種>> (東海3県、前年同月比、%)

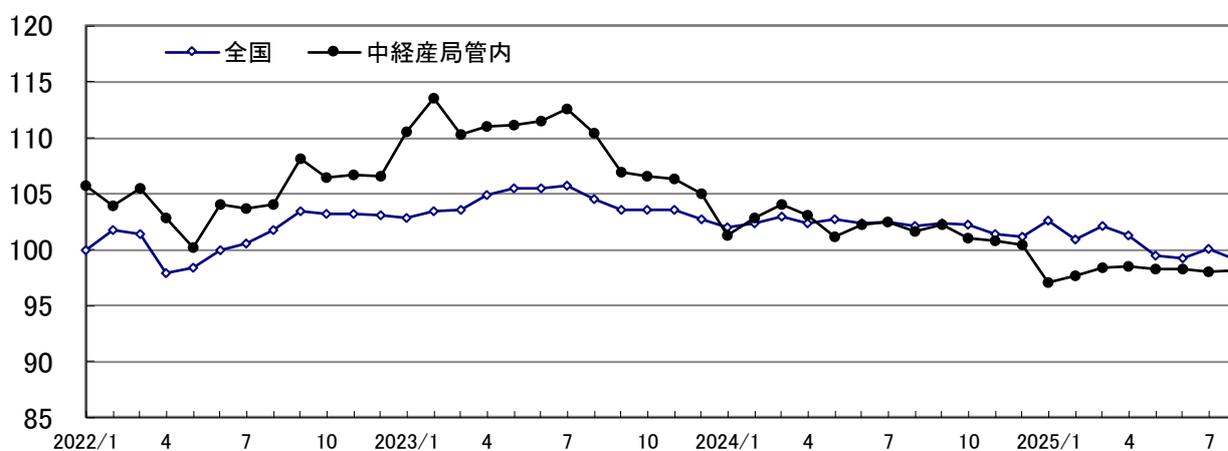
10月16日



(資料) 「管内鉱工業の動向」 (中部経済産業局)

③ 鉱工業生産在庫指数 (2020年=100)

10月16日

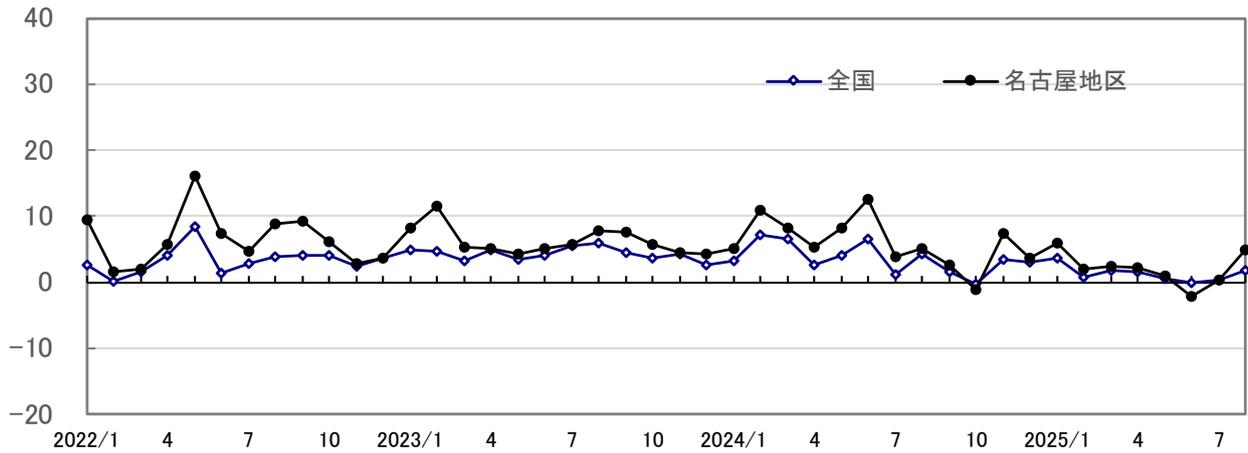


(資料) 「管内鉱工業の動向」 (中部経済産業局)、中経産局管内：東海3県、富山、石川
「鉱工業生産・出荷・在庫指数」 (経済産業省)

2. 消費

① 大型小売店販売[百貨店+スーパー] (既存店、前年同月比、%)

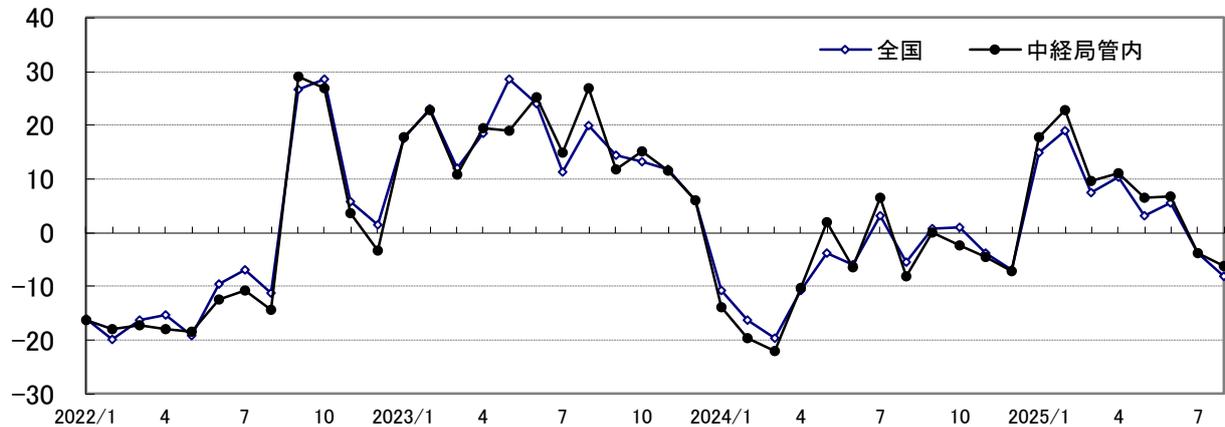
10月17日



(資料) 「管内大型小売店販売概況」 (中部経済産業局)、「商業動態統計調査」 (経済産業省)

② 乗用車新規登録台数 (前年同月比、%)

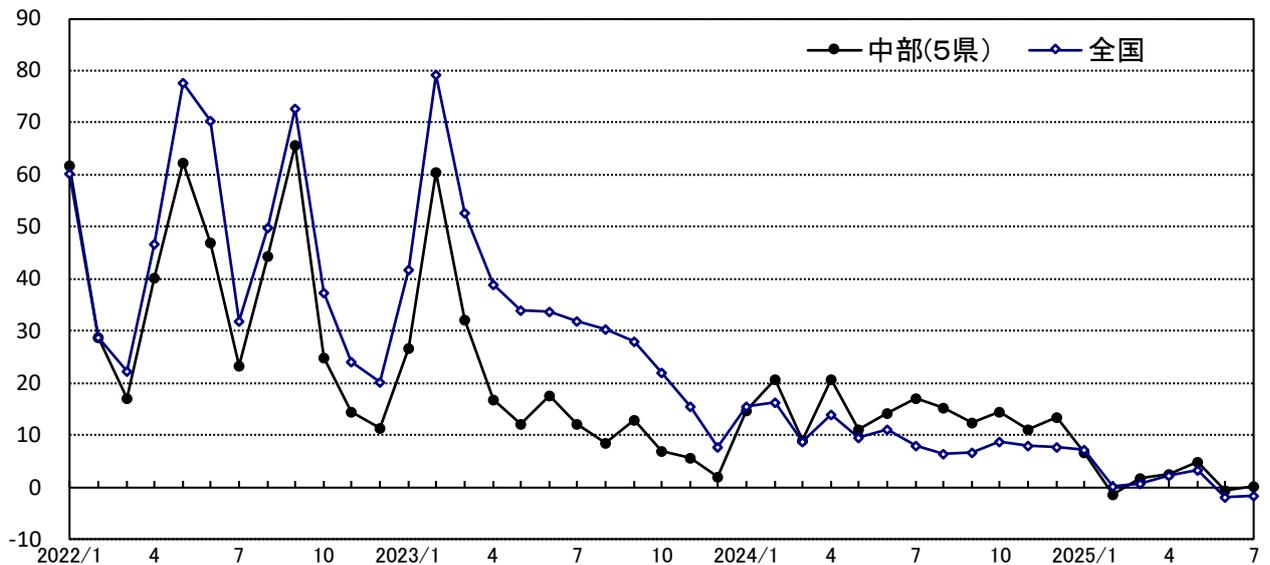
10月16日



(資料) 中部経済産業局資料

③ 延べ宿泊者数 (前年同月比、%)

9月30日

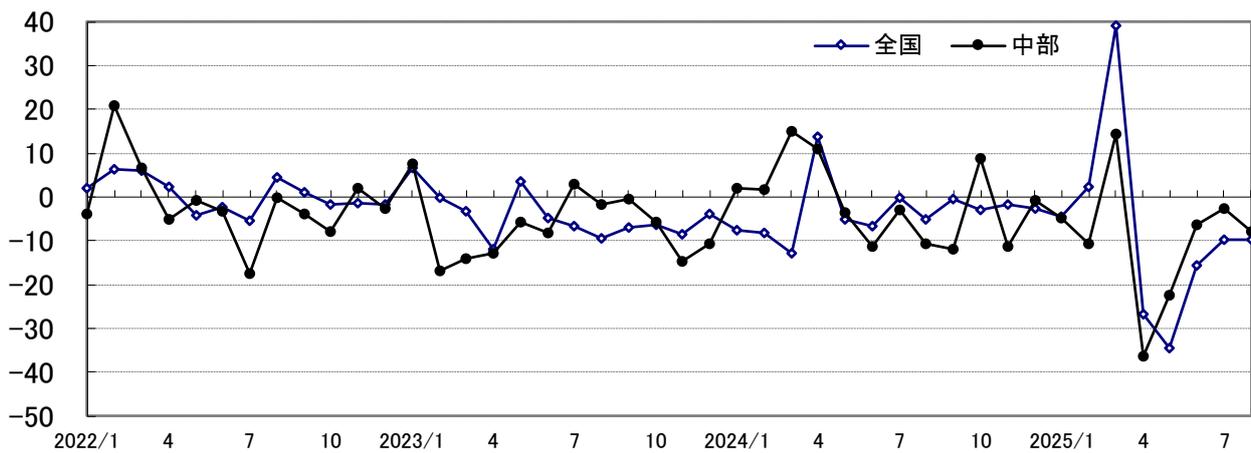


(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

3. 住宅・設備投資

① 新設住宅着工戸数（前年同月比、%）

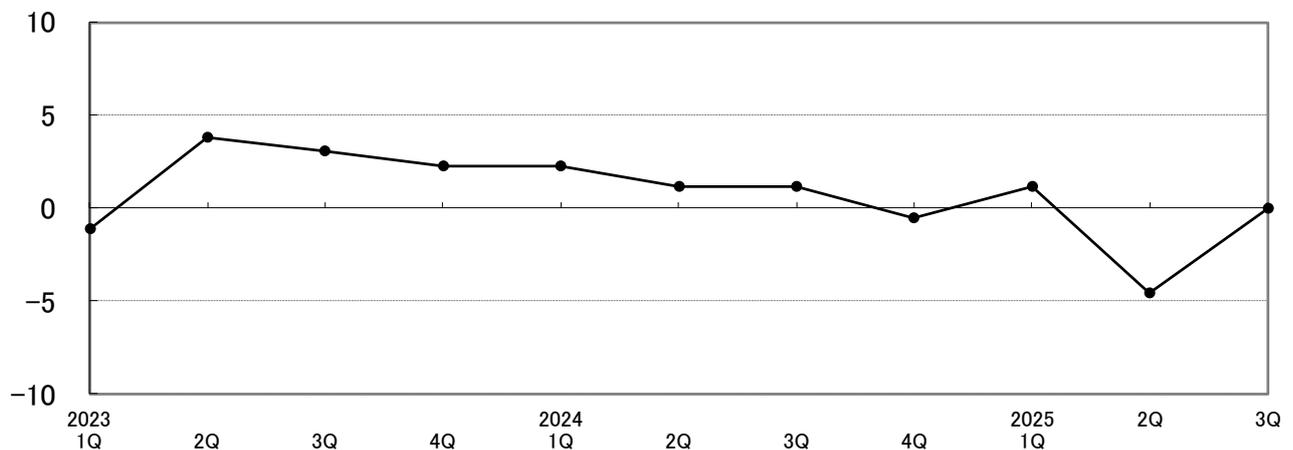
9月30日



(資料) 「建築着工統計調査報告」(国土交通省)、中部：岐阜、静岡、愛知、三重

② 設備投資計画判断(現況判断：「積増し」-「縮小・繰り延べ」)

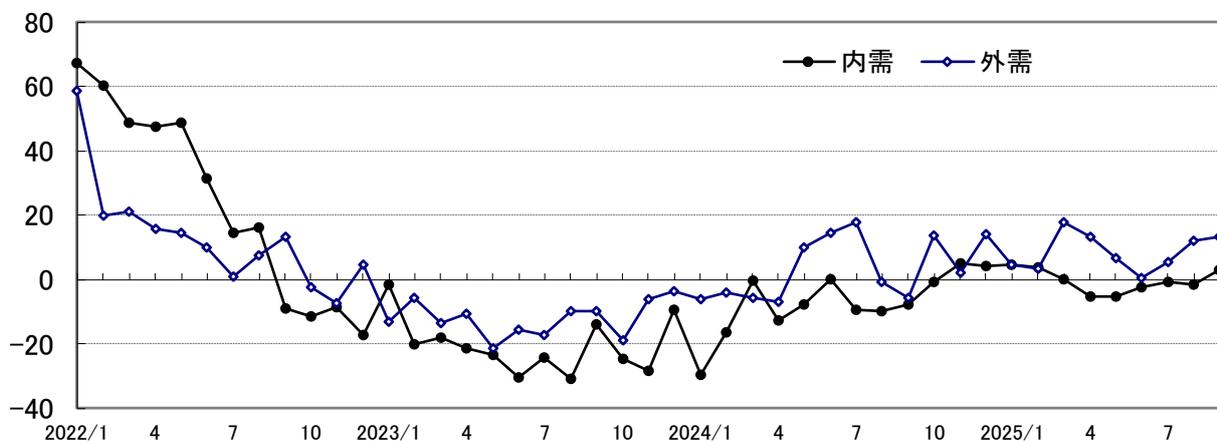
9月1日



(資料) 本会アンケート調査(9月)

③ 工作機械受注(全国、前年同月比、%)

10月8日

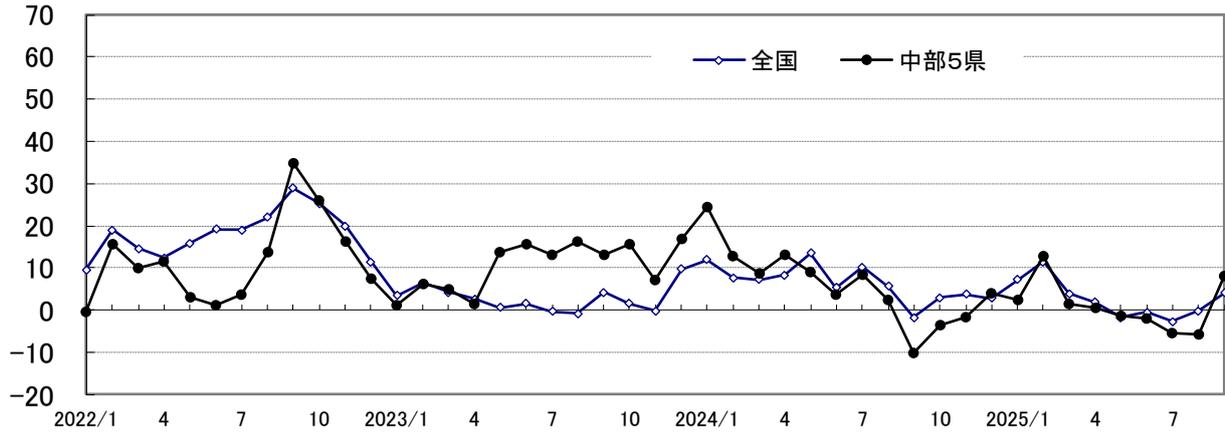


(資料) 「工作機械統計」(日本工作機械工業会)

4. 輸出入

① 通関輸出額(前年同月比、%)

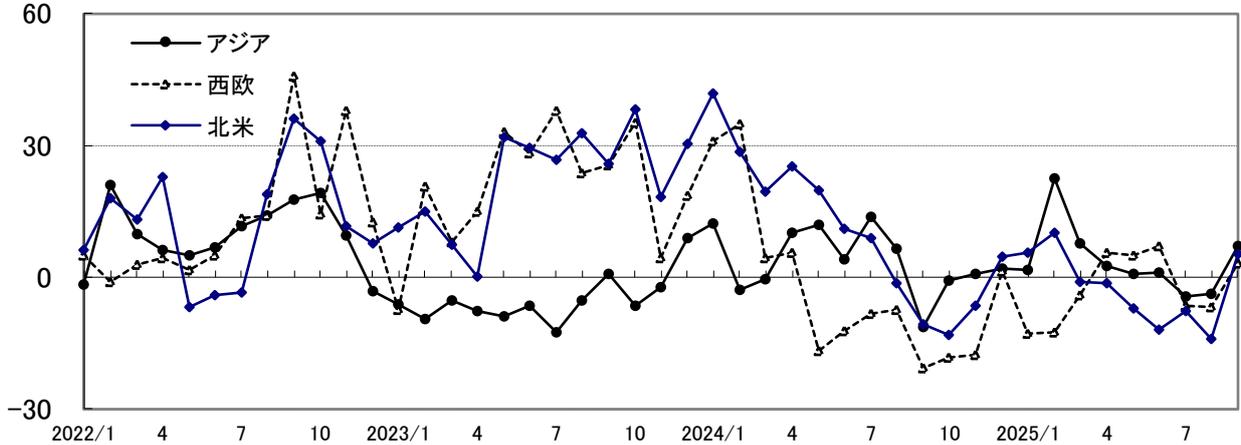
10月22日



(資料) 「管内貿易概況」(名古屋税関)、「貿易統計」(財務省)

② 通関輸出額 <<相手先別>>(中部5県、前年同月比、%)

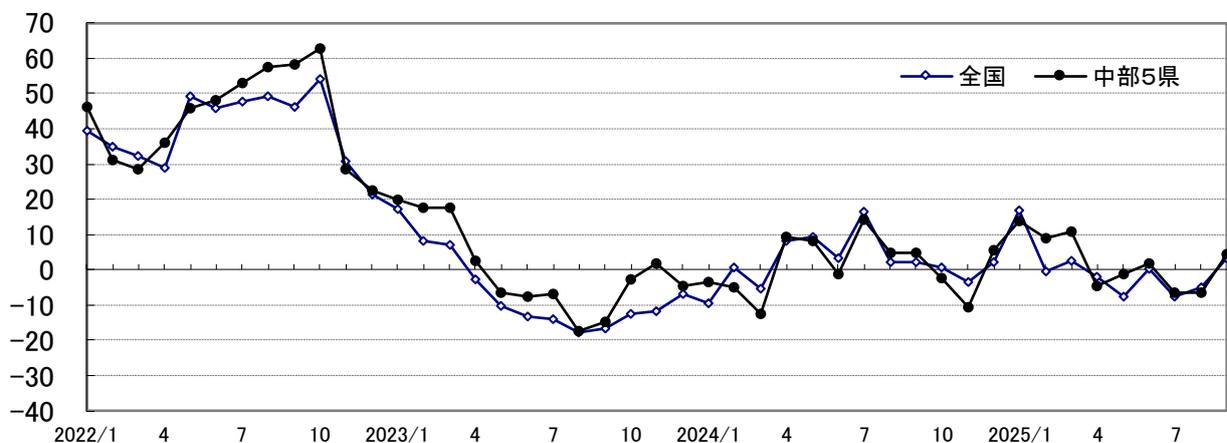
10月22日



(資料) 「管内貿易概況」(名古屋税関)

③ 通関輸入額(前年同月比、%)

10月22日

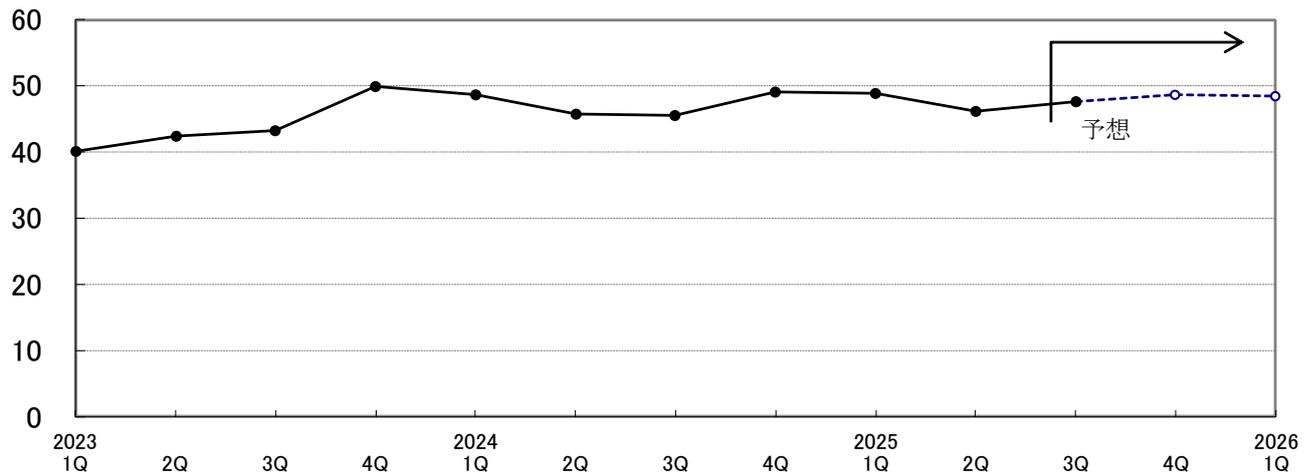


(資料) 「管内貿易概況」(名古屋税関)、「貿易統計」(財務省)

5. 雇用

① 雇用判断(現況判断:「不足」-「過剰」)

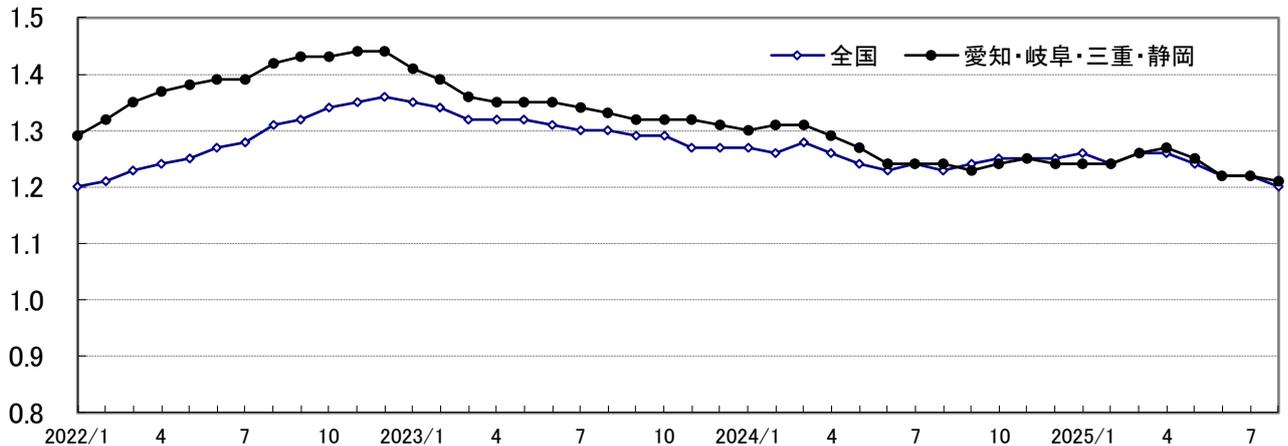
9月1日



(資料) 本会アンケート調査(9月)

② 有効求人倍率(倍)

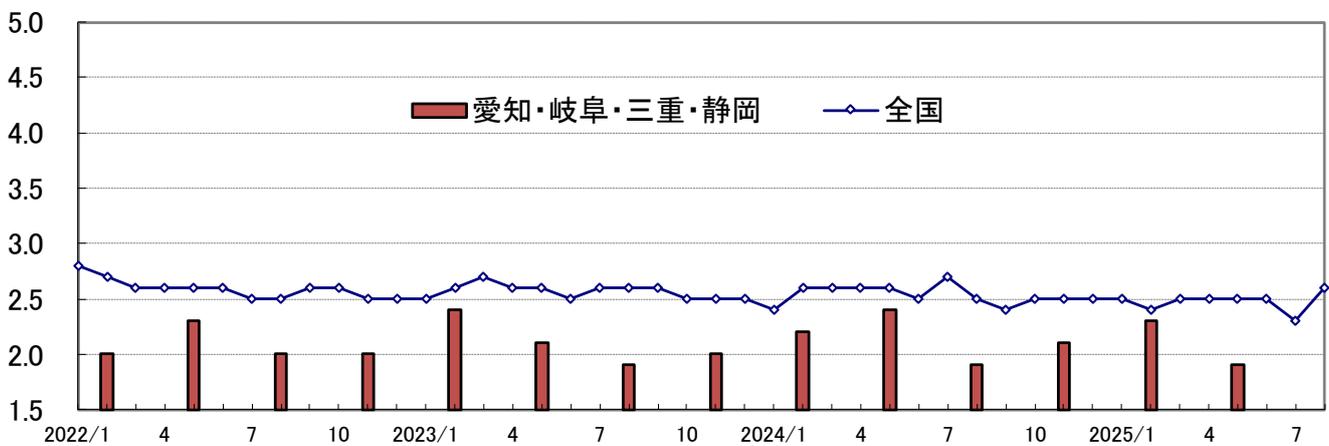
10月3日



(資料) 「一般職業紹介状況」(厚生労働省)

③ 完全失業率(%)

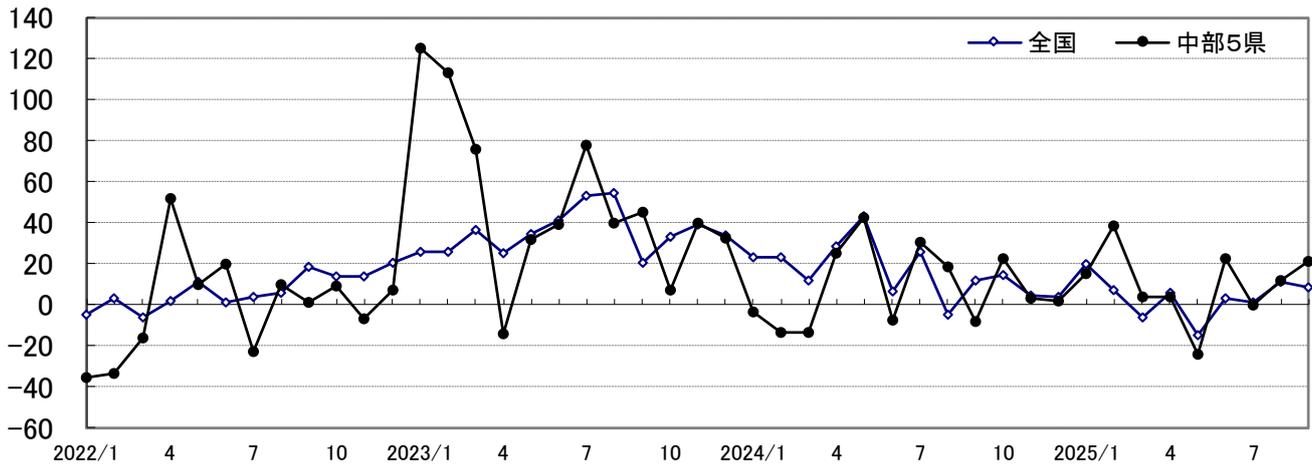
10月3日



(資料) 「労働力調査」(総務省)、東海は四半期データ

6. 企業倒産件数 (前年同月比、%)

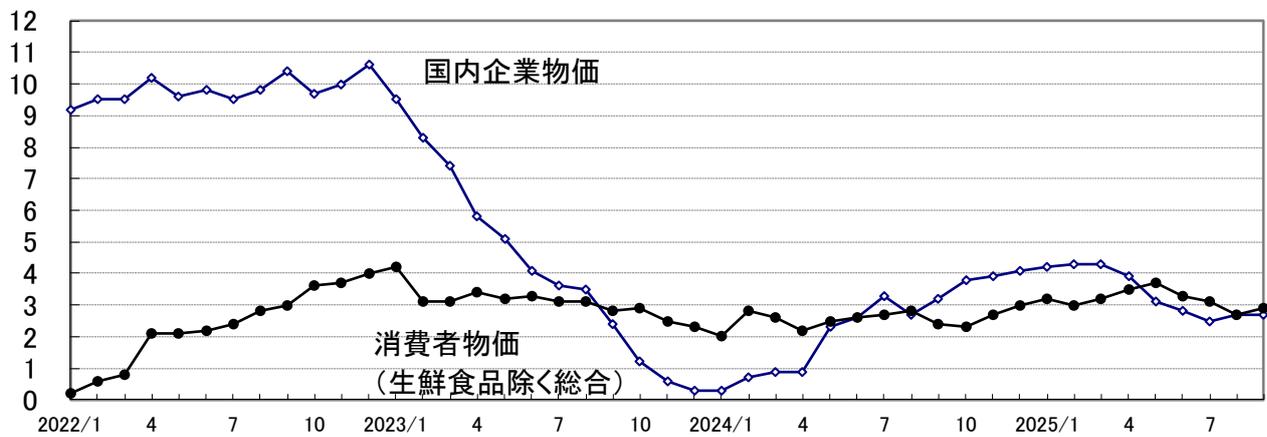
10月8日



(資料) 「中部地区の企業倒産動向」・「全国企業倒産状況」 (東京商工リサーチ)

7. 物価 (全国、前年同月比、%)

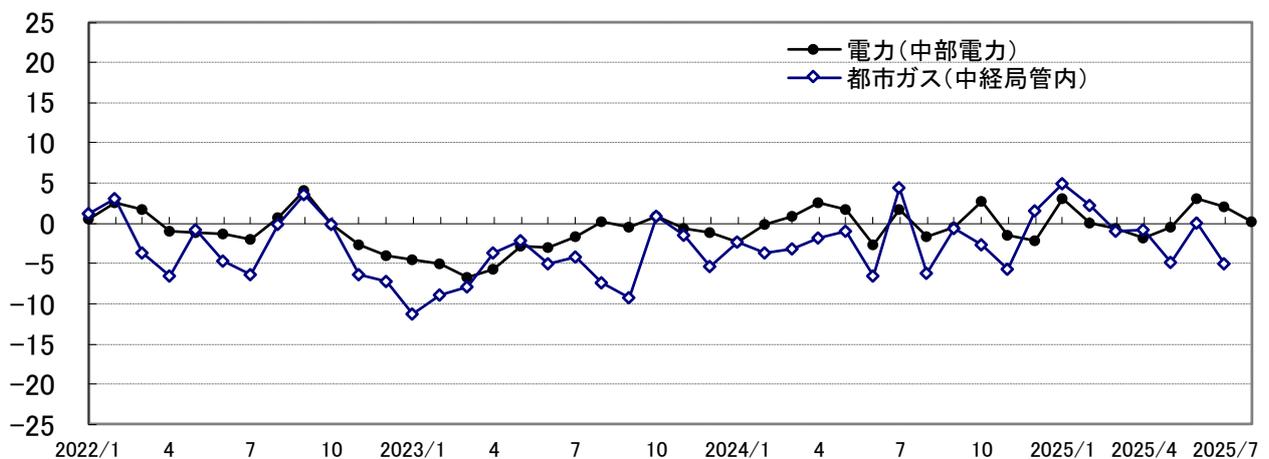
10月24日



(資料) 「消費者物価指数」 (総務省統計局)、 「企業物価指数」 (日本銀行)

8. エネルギー需要 (前年同月比、%)

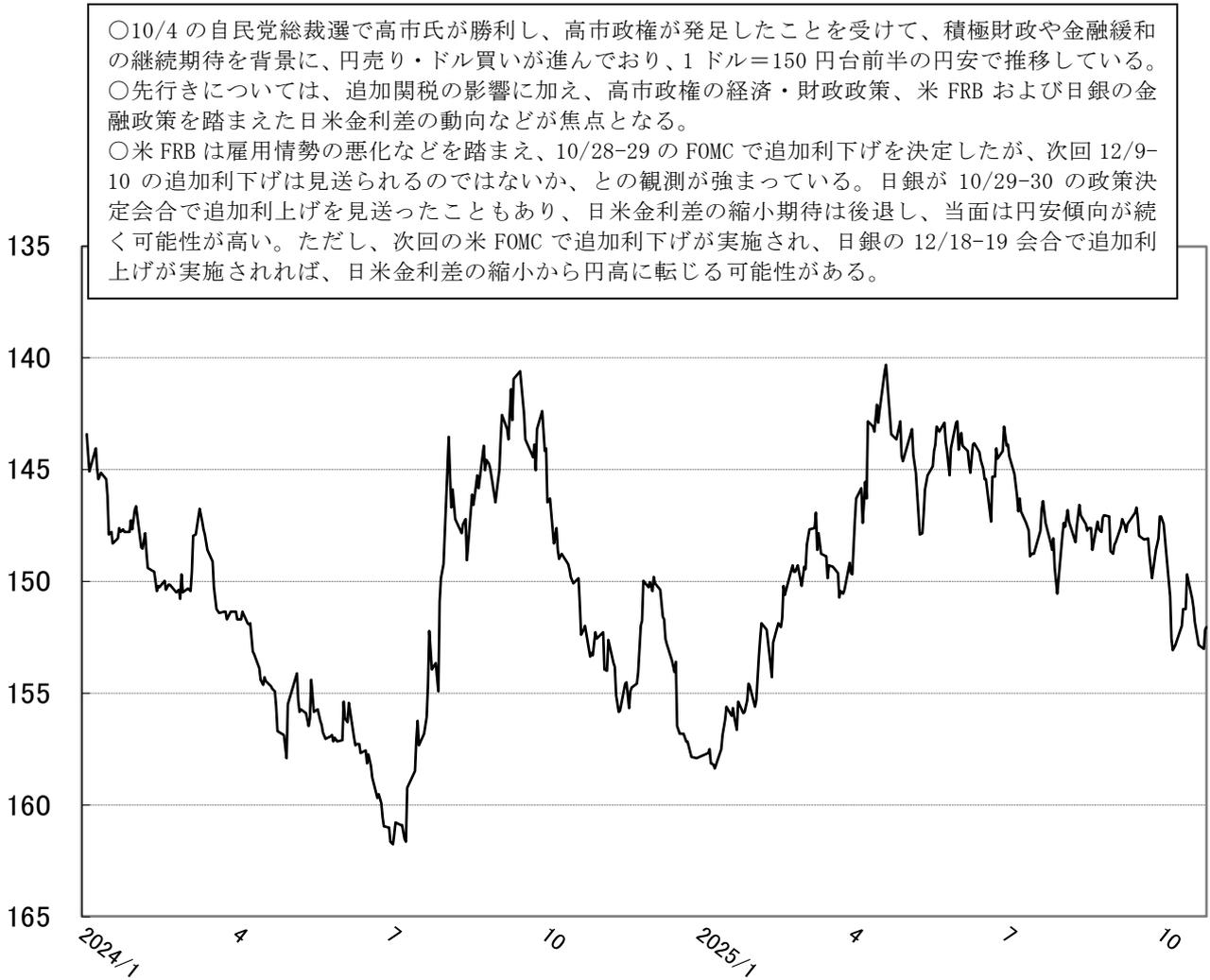
10月23日



(資料) 「電力」は高圧・特別高圧 (中部電力)。
 「都市ガス」は「ガス事業生産動態統計」 (資源エネルギー庁)。管内は愛知県、三重県、岐阜県、静岡県の一部、石川県、富山県。

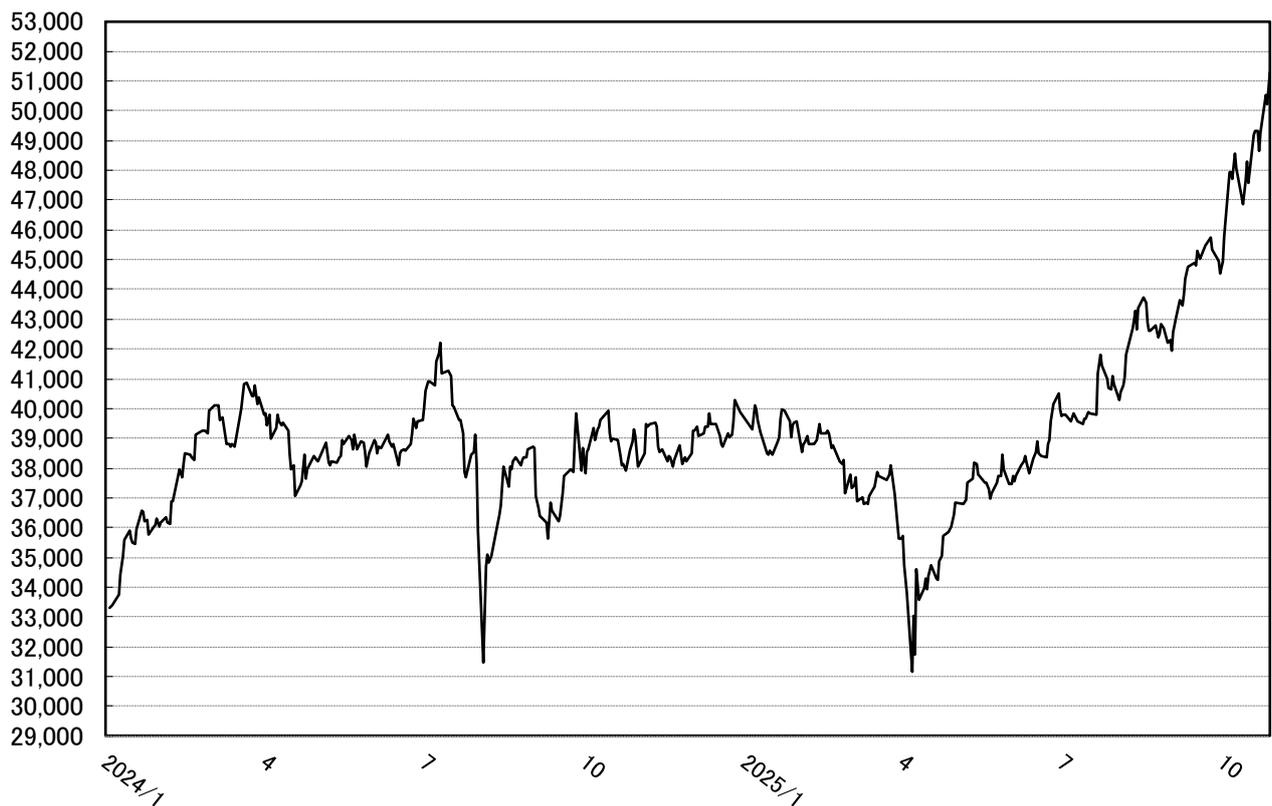
9. 為替相場の推移 (日次、終値、円/ドル)

9月平均 147.93円/ドル

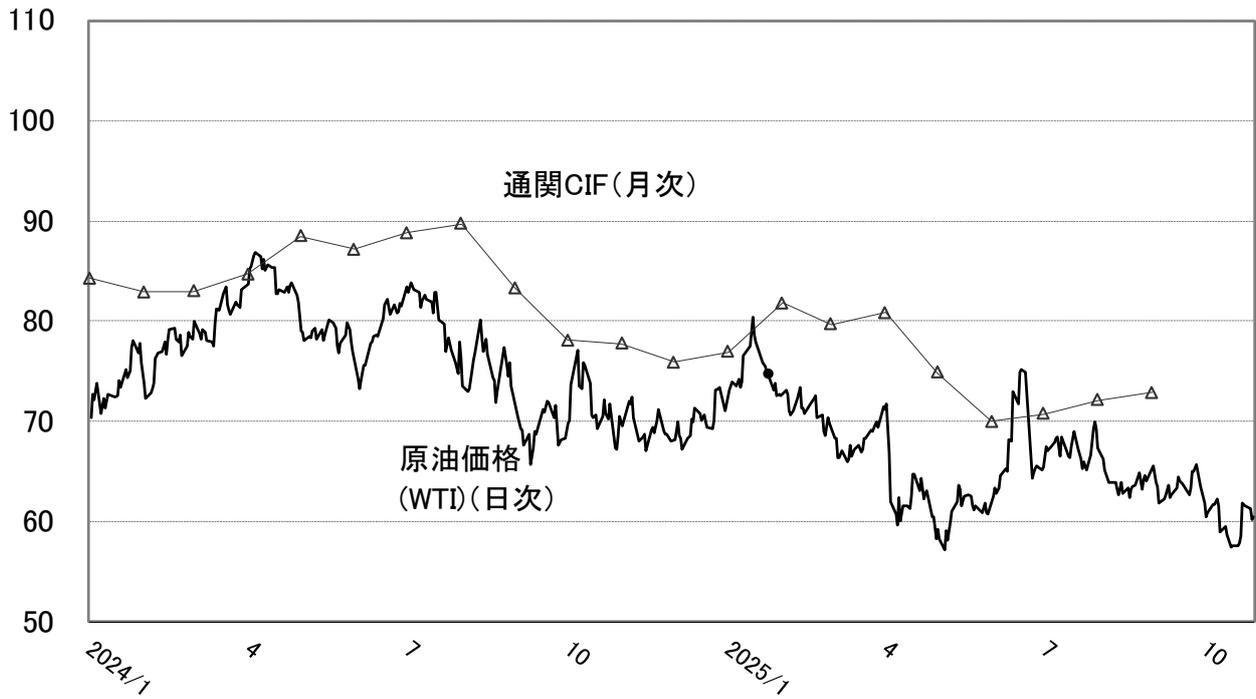


10. 日経平均株価の推移 (日次、終値、円)

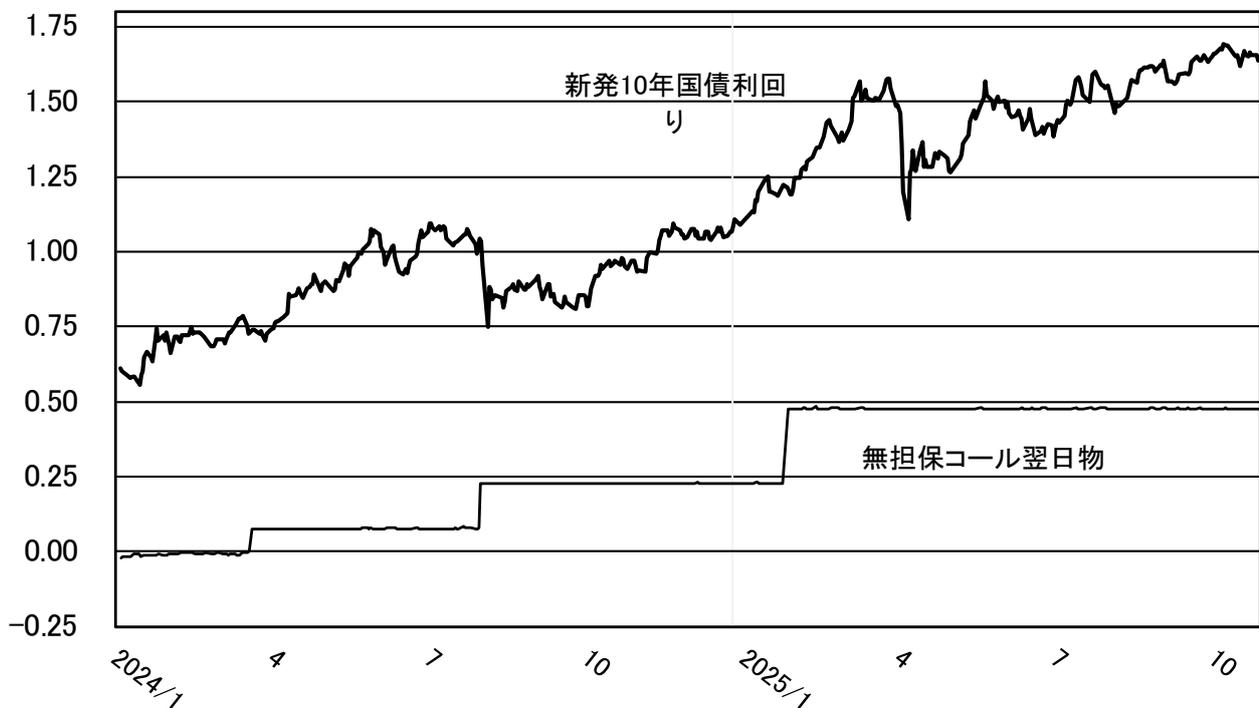
9月平均 44,218.54円



11. 原油価格の推移 (ﾄﾞﾙ/ﾊﾞﾚﾙ)



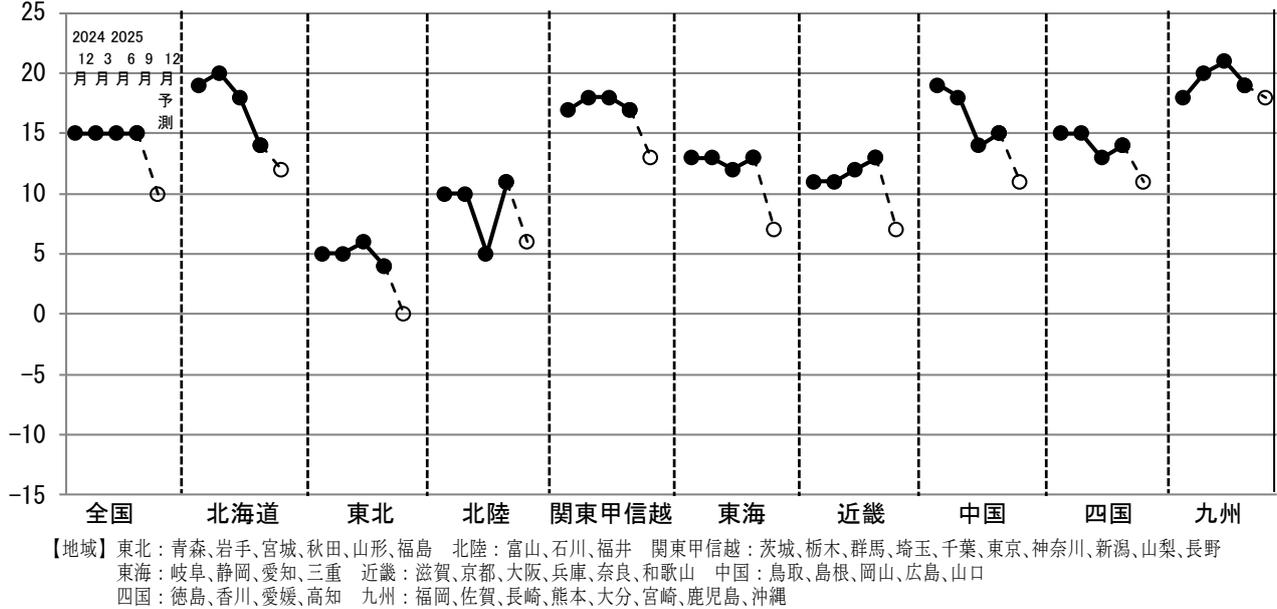
12. 長短金利の推移 (日次、%)



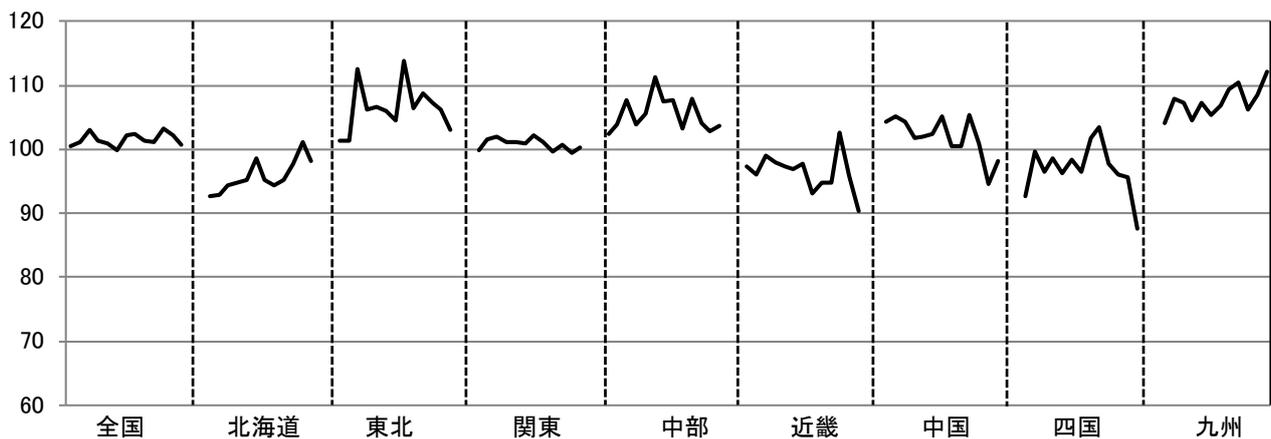
(資料) 9～12. 日本経済新聞「市場体温計」等のデータを基に本会作成

Ⅲ 国内各地域の概況

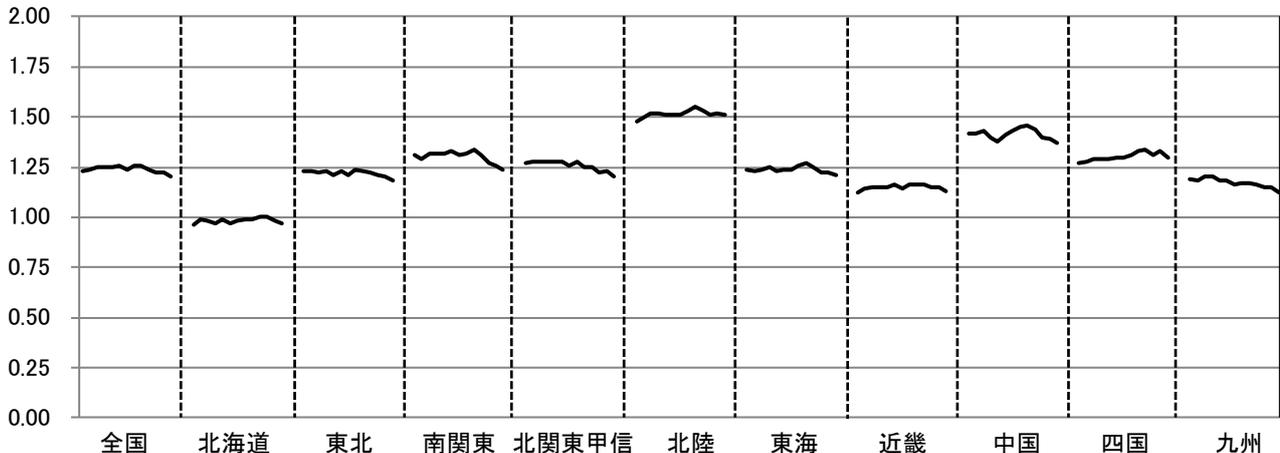
1. 地域別業況判断D I (日銀「短観」地域別業況判断D I(全産業)期間：2024年12月～2025年12月(予測))



2. 鉱工業生産指数 (期間：2024年8月～2025年8月)



3. 有効求人倍率 (期間：2024年8月～2025年8月)



IV 中部圏各県の経済概況

1. 要点総括

	長野県		岐阜県		静岡県		愛知県		三重県	
	判断変化	基調判断	判断変化	基調判断	判断変化	基調判断	判断変化	基調判断	判断変化	基調判断
2025年7月	→	持ち直している	→	緩やかに回復しつつある	→	緩やかに回復しつつある	→	緩やかに回復しつつある	→	持ち直している
2025年4月	→	持ち直している	→	緩やかに回復しつつある	→	緩やかに回復しつつある	→	緩やかに回復しつつある	→	持ち直している
2025年1月	→	持ち直している	→	緩やかに回復しつつある	→	緩やかに回復しつつある	→	緩やかに回復しつつある	→	持ち直している
2024年10月	→	持ち直している	↗	緩やかに回復しつつある	↗	緩やかに回復しつつある	↗	緩やかに回復している	→	持ち直している
2024年7月	→	持ち直している	→	回復に向けた動きに一服感がみられる	→	回復に向けた動きに一服感がみられる	→	回復の動きに一服感がみられる	→	持ち直している

*判断変化：基調判断の前回月報からの変化の方向を示す

↗：上方修正 →：前回と同じ ↘：下方修正

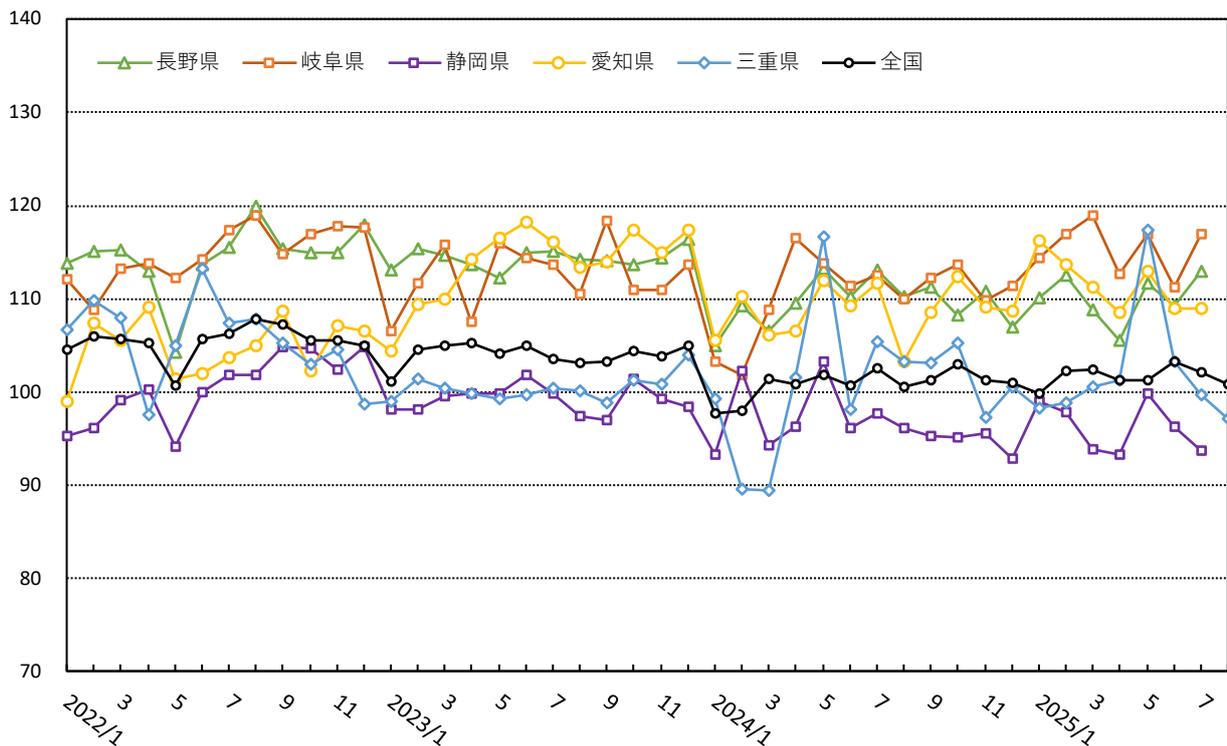
(資料) 長野県：財務省関東財務局「最近の県内経済情勢」

岐阜県、静岡県、愛知県、三重県：財務省東海財務局「最近の管内経済情勢について」

2. 各県主要経済指標

① 鋳工業生産指数 (2020年=100)

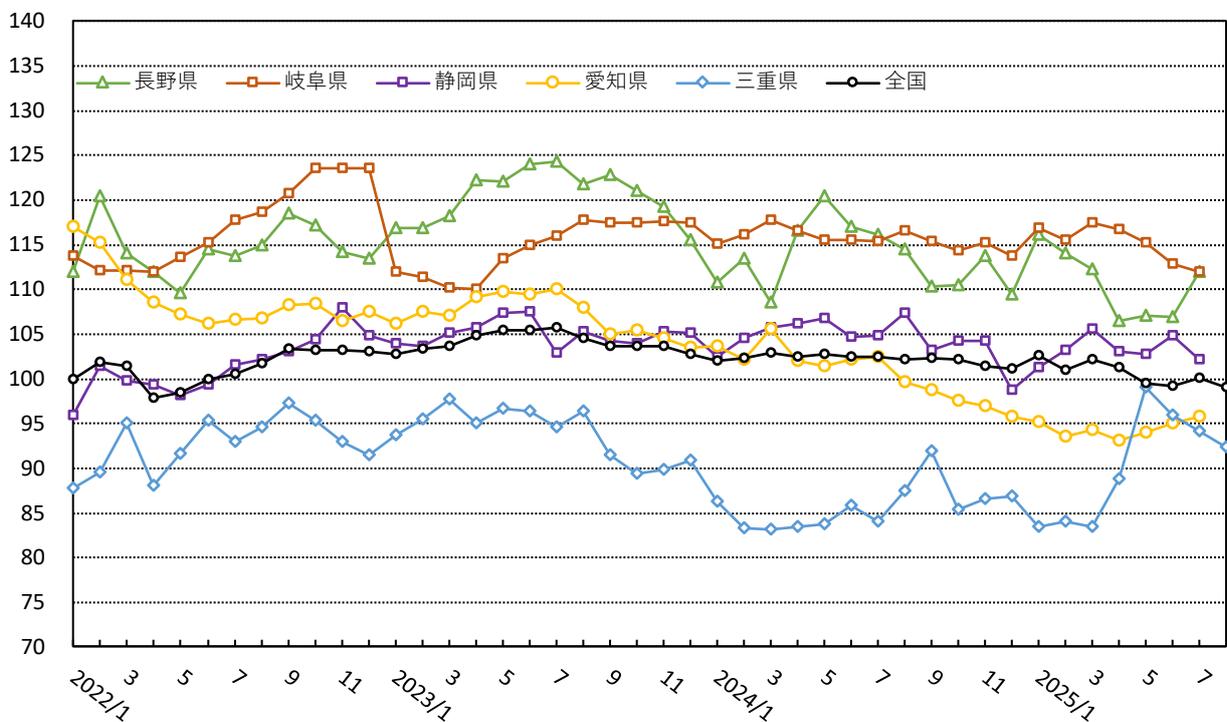
10月23日



(資料)「鋳工業生産指数」(経済産業省)、各県 HP

① 鋳工業在庫指数 (2020年=100)

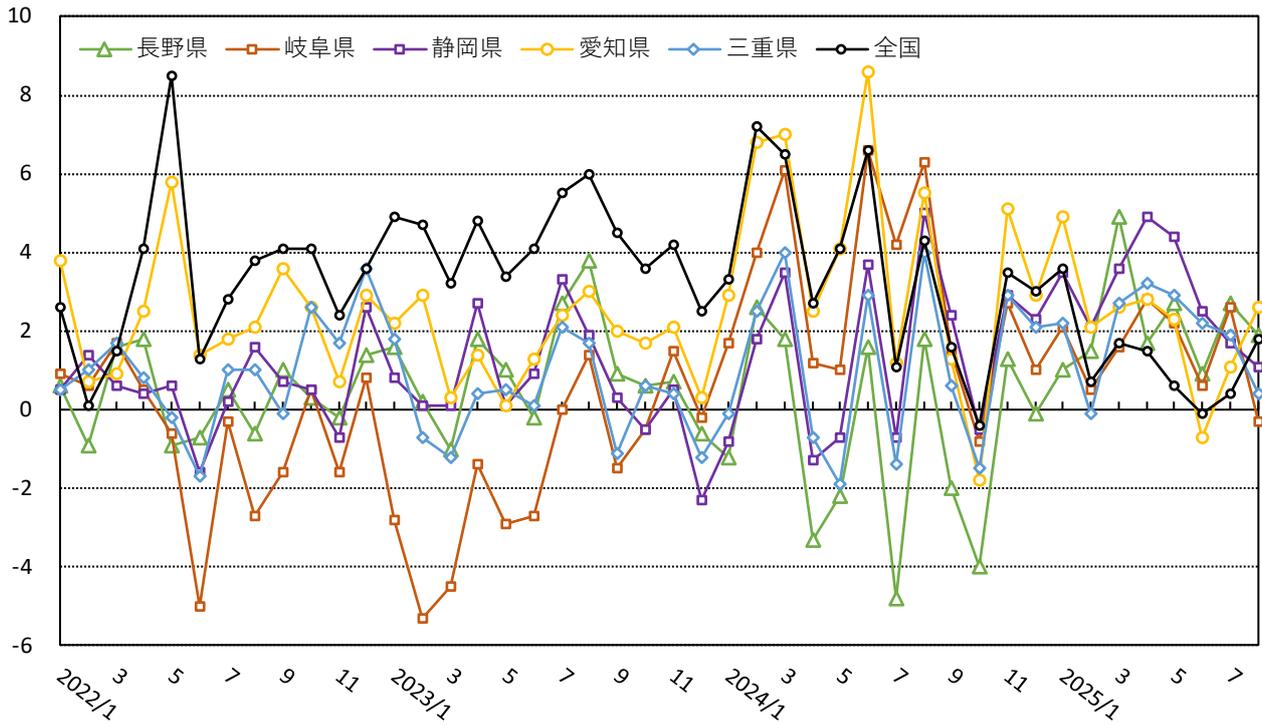
10月23日



(資料)「鋳工業生産指数」(経済産業省)、各県 HP

② 大型小売店販売額（既存店、前年同月比、%）

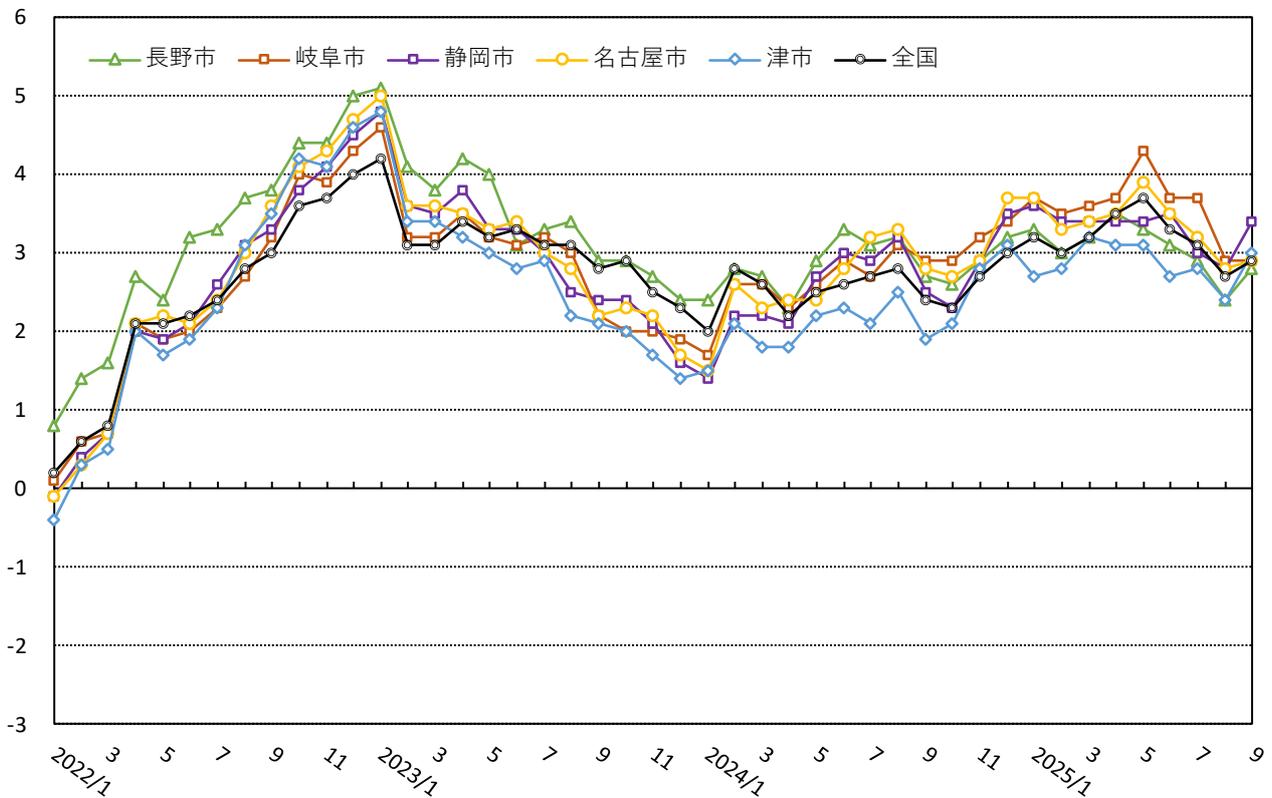
10月15日



(資料)「商業動態統計調査月報」(経済産業省)

③ 消費者物価指数（前年同月比、% 2020年=100）

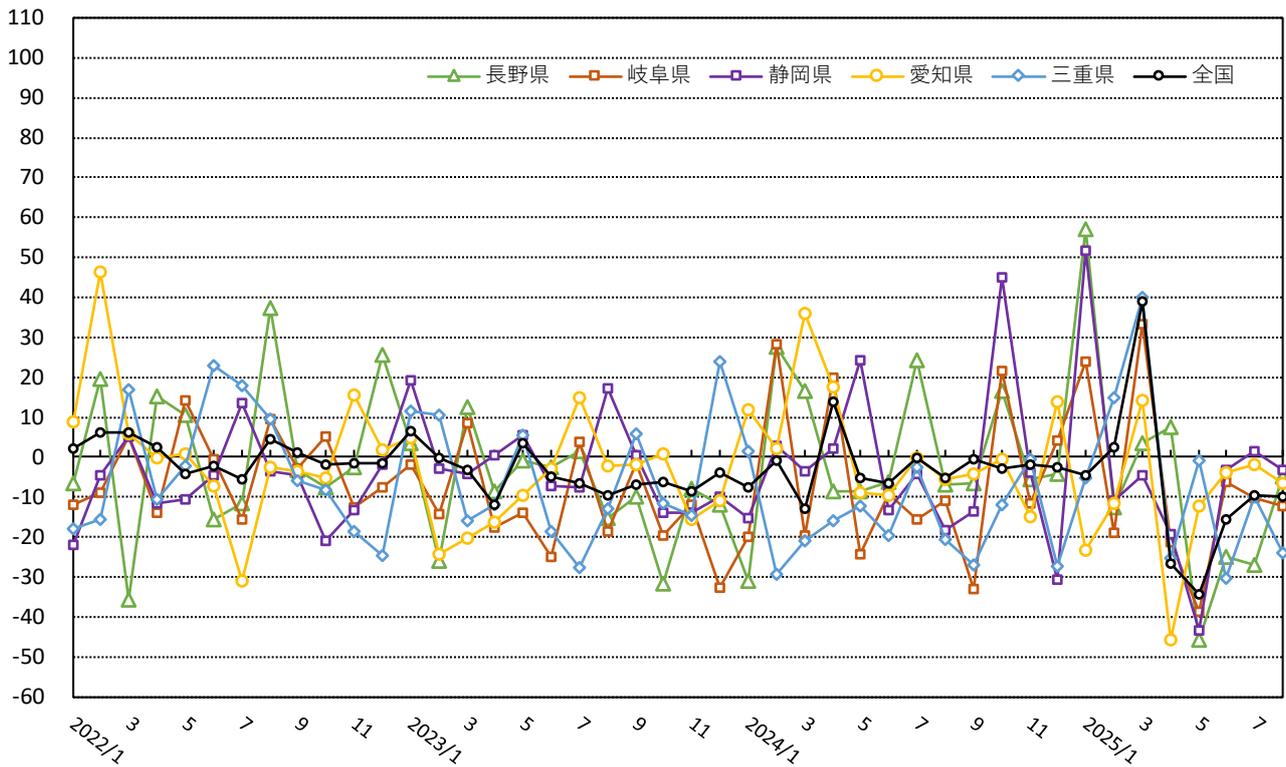
10月24日



(資料)「消費者物価指数」(総務省統計局)

④ 新設住宅着工戸数（前年同月比、％）

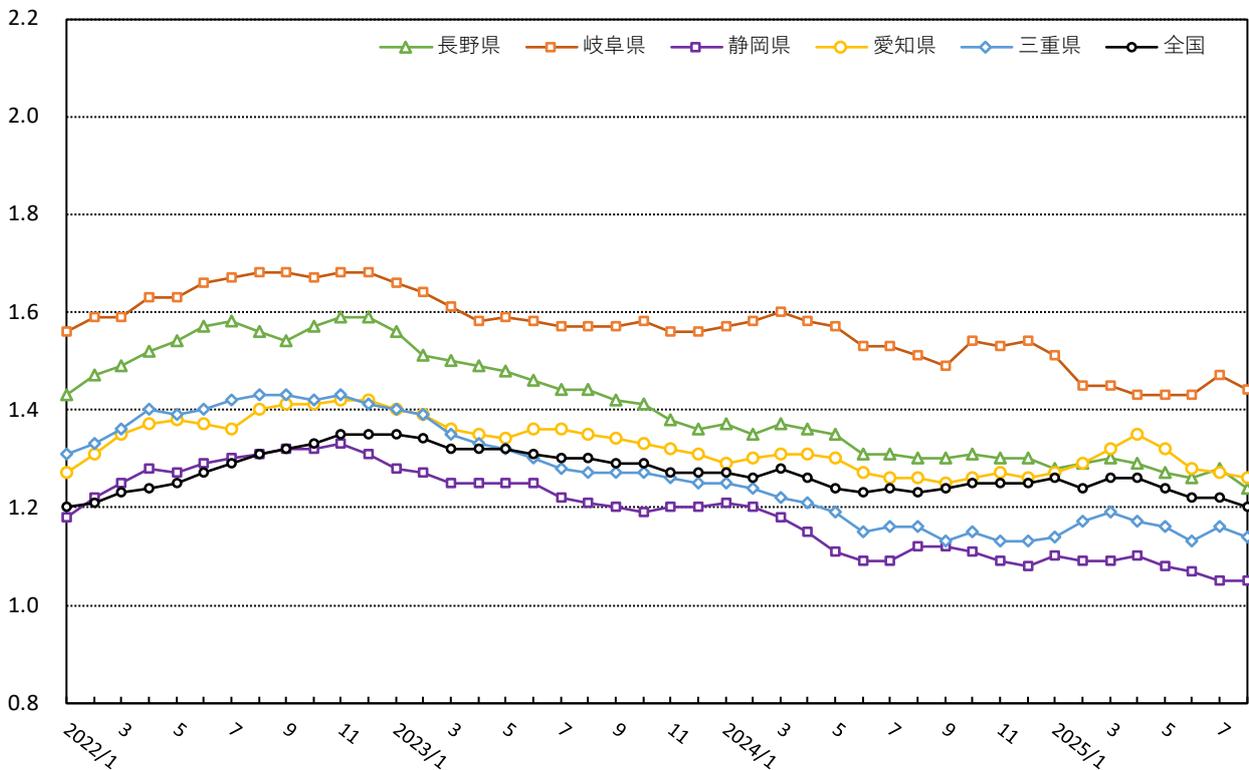
9月30日



（資料）「建築着工統計調査報告」（国土交通省）

⑤ 有効求人倍率（倍）

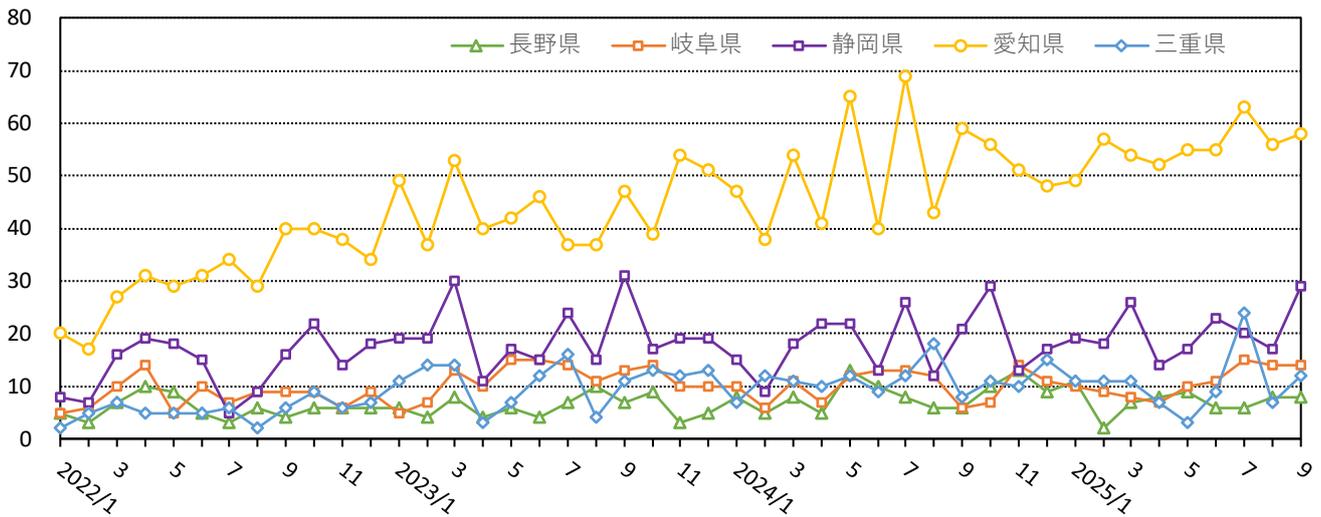
10月3日



（資料）「一般職業紹介状況」（厚生労働省）

⑥ 企業倒産件数 (件)

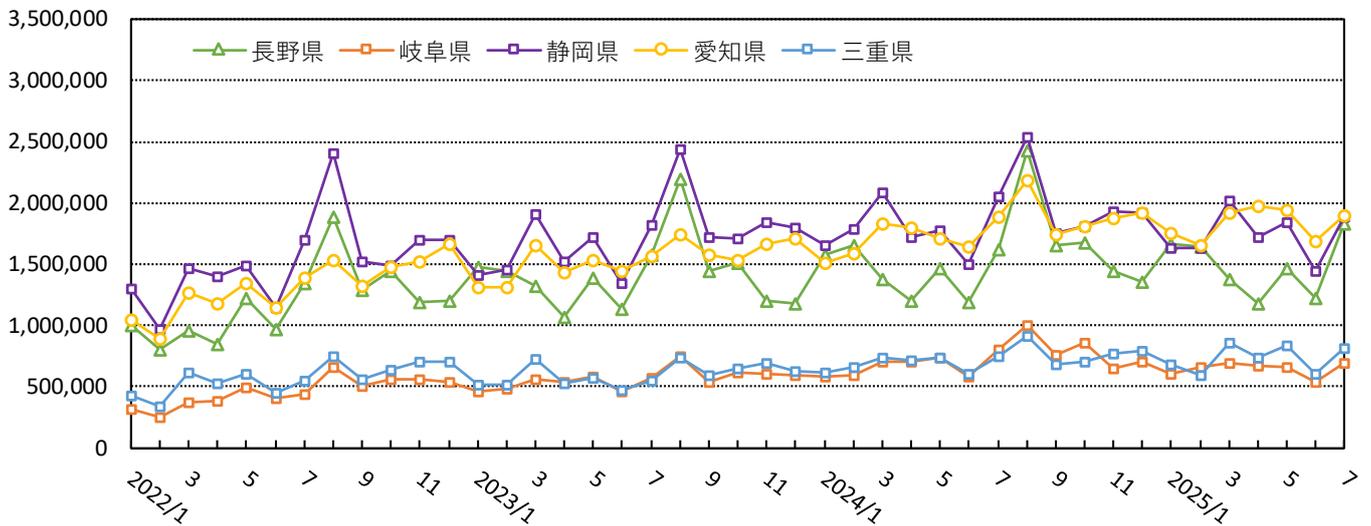
10月8日



(資料) 「全国企業倒産状況」(東京商工リサーチ)

⑦ 延べ宿泊者数 (人泊)

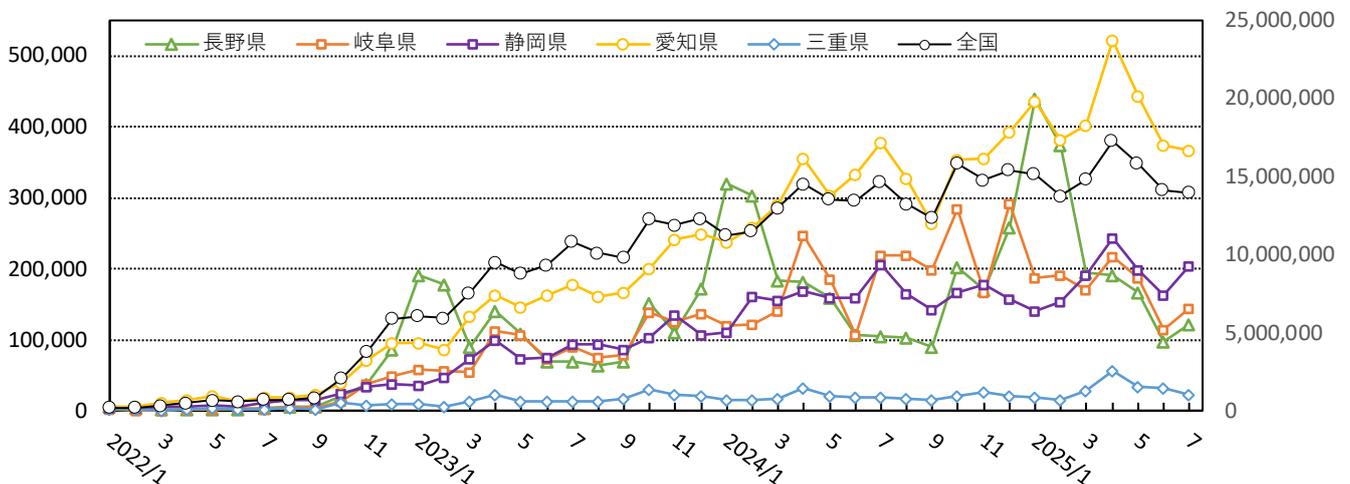
9月30日



(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

⑧ 外国人延べ宿泊者数 (人泊) ※全国の数値はグラフ右側を参照

9月30日



(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

V 海外主要経済動向

1. 実質GDP成長率 (%)

		2022年	2023年	2024年	2022年			2023年			2024年			2025年			
					4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月
日本	前期比年率	1.0	1.2	0.1	3.7	▲1.3	0.9	5.3	0.8	▲3.2	▲0.5	▲0.9	1.9	2.3	2.1	0.3	2.2
アメリカ	前期比年率	2.5	2.9	2.8	0.6	2.9	2.8	2.9	2.5	4.7	3.4	0.8	3.6	3.3	1.9	▲0.6	3.8
ユーロ圏	前期比年率	3.6	0.4	0.9	3.8	1.9	▲0.2	▲0.2	0.8	▲0.2	0.2	1.1	0.8	1.6	1.6	2.3	0.5
ドイツ	前期比年率	1.8	▲0.9	▲0.5	0.6	1.2	▲1.4	▲1.9	▲0.3	0.0	▲1.1	▲0.4	▲1.0	0.1	0.7	1.2	▲1.1
フランス	前期比年率	2.7	1.4	1.2	1.7	2.1	1.5	0.2	3.6	1.0	1.8	0.5	0.7	1.5	▲0.2	0.5	1.3
イギリス	前期比年率	5.1	0.3	1.1	1.3	0.5	1.3	0.2	0.2	▲0.2	▲0.8	3.7	1.8	0.0	0.4	3.0	1.4
中国	前年同期比	3.1	5.4	5.0	0.8	4.0	3.0	4.7	6.5	5.0	5.3	5.3	4.7	4.6	5.4	5.4	5.2
韓国	前期比年率	2.7	1.6	2.0	3.6	2.0	▲1.5	1.4	2.8	3.2	2.0	4.8	▲0.9	0.4	0.3	▲0.9	2.7
ブラジル	前年同期比	3.0	3.2	3.4	3.5	4.3	2.7	4.4	3.9	2.4	2.4	2.6	3.3	4.0	3.6	2.9	2.2
ロシア	前年同期比	▲1.4	4.1	4.3	▲3.7	▲2.9	▲1.9	▲0.9	5.3	6.2	5.3	5.4	4.3	3.3	4.5	1.4	1.1
インド	前年同期比	7.6	9.2	6.5	13.5	6.0	4.8	6.9	9.7	9.3	9.5	8.4	6.5	5.6	6.4	7.4	7.8

2. 鉱工業生産 (前年同月比、%)

	2022年	2023年	2024年	2024年				2025年							
				9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
日本	▲0.2	▲1.3	▲2.6	▲3.2	0.8	▲3.3	▲2.2	2.2	0.1	1.0	0.5	▲2.4	4.4	▲0.4	▲1.3
アメリカ	3.4	0.2	▲0.3	▲0.5	▲0.4	▲1.0	0.4	1.7	1.3	1.4	1.2	0.8	0.9	1.3	0.9
ユーロ圏	1.8	▲1.7	▲3.0	▲2.3	▲1.0	▲2.1	▲1.8	▲0.3	0.9	3.7	0.4	3.1	0.7	1.8	-
ドイツ	▲0.2	▲1.9	▲4.6	▲4.2	▲4.1	▲2.8	▲3.0	▲2.5	▲3.8	▲0.1	▲2.4	0.2	▲1.8	2.1	-
フランス	0.6	0.9	0.0	▲0.3	▲0.5	▲0.8	▲0.8	▲1.0	▲0.1	0.5	▲1.9	▲1.2	2.2	1.3	-
イギリス	▲6.4	▲0.8	▲1.2	▲1.6	1.0	▲3.9	1.0	▲0.1	▲1.3	2.6	▲0.2	▲1.8	2.9	0.1	-
中国	3.0	4.8	5.4	5.4	5.3	5.4	6.2	-	-	7.7	6.1	5.8	6.8	5.7	5.2
韓国	1.0	▲2.5	4.1	▲1.5	6.4	▲0.3	4.4	▲5.0	6.5	4.5	5.1	▲0.3	1.6	5.0	-
ブラジル	▲0.7	0.1	3.1	3.3	6.0	1.6	1.4	1.4	1.3	3.5	▲0.5	3.4	▲1.3	0.2	-
ロシア	0.9	4.3	4.6	3.5	6.2	4.6	9.5	0.9	▲0.9	0.2	1.3	1.4	1.9	0.7	0.5
インド	4.6	5.8	4.4	3.2	3.7	5.0	3.7	5.2	2.7	3.9	2.6	1.9	1.5	4.3	4.0

3. 失業率 (%)

	2022年	2023年	2024年	2024年				2025年							
				9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
日本	2.6	2.6	2.6	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5	2.3	-
アメリカ	3.7	3.6	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	4.0	4.1	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.3
ユーロ圏	6.8	6.6	6.4	6.3	6.3	6.2	6.3	6.3	6.3	6.4	6.3	6.4	6.3	6.2	-
ドイツ	3.1	3.1	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	-
フランス	7.3	7.3	7.4	7.4	7.4	7.3	7.3	7.3	7.5	7.6	7.5	7.6	7.6	7.6	-
イギリス	3.8	4.1	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.6	4.7	4.7	4.7	-	-
韓国	2.9	2.7	2.8	2.5	2.7	2.7	3.7	2.9	2.7	2.9	2.7	2.7	2.6	2.5	2.6
ブラジル	9.5	8.0	6.9	6.4	6.2	6.1	6.2	6.5	6.8	7.0	6.6	6.2	5.8	5.6	5.6
ロシア	4.0	3.2	2.5	2.4	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1

(資料) 1～3. 外務省国際経済課「主要経済指標」

VI 特集 CEATEC 2025 視察報告

(1) AI が溶け込んだ社会や暮らしの提案が目立った CEATEC 2025

10月14日から4日間にわたり幕張メッセでCEATEC 2025が開催された。CEATEC（シーテック、Combined Exhibition of Advanced TEChnologies）は、経済発展と社会課題の解決を両立する「Society 5.0」の実現を目指し、あらゆる産業・業種の人と技術・情報が集い、「共創」によって未来を描くことをテーマに掲げる「デジタルイノベーションの総合展」である。

今年は「AI エージェント元年」と呼ばれ、CEATEC 2025においても、議事録や画像作成など人の指示に基づいて動くAIの展示にとどまらず、AIがより自律的に複雑な作業をこなし、社会課題の解決や価値創出につなげようとする提案が多くみられ、AIが溶け込んだ社会や暮らしが現実のものになりつつあることが感じられた。

本稿では、製造現場と暮らしへのAI活用に関する展示をいくつか紹介していきたい。

図表1 CEATEC 2025 開催概要

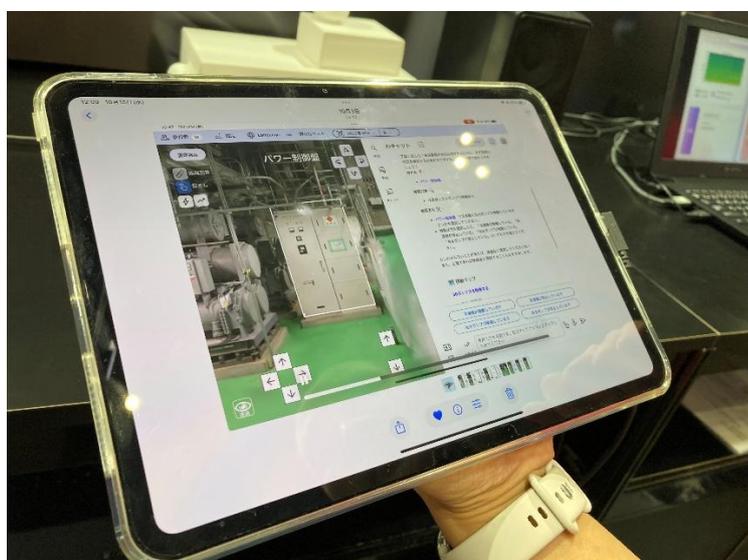
会期	2025年10月14日（火）～17日（金）（4日間）
会場	幕張メッセ（千葉県）
主催	一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)
共催	一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)、一般社団法人ソフトウェア協会(SAJ)
テーマ	Innovation for All（業界や分野、国や地域といった枠を超え、すべての人々に恩恵をもたらすイノベーションの実現を目指す）
開催趣旨	経済発展と社会課題の解決を両立する「Society 5.0」の実現を目指し、あらゆる産業・業種の人と技術・情報が集い、「共創」によって未来を描く
出展者数	・810社/団体（うち318社/団体が初出展）、スタートアップ/大学研究機関は過去最多の232社/団体が出展 ・海外からは29の国と地域の156社/団体が出展予定
特設エリア	AX (AI Transformation) パーク、暮らしのDXパビリオン、地方創生2.0パビリオン、海洋デジタル社会パビリオン、ネクストジェネレーションパーク 他
来場者数	9万8,884人（目標：10万人超）

（出所）CEATEC2025 ホームページ

(2) 製造現場の課題解決に向けたAI活用の提案

製造業向けには、人手不足や熟練者不足への対応として、マニュアルや熟練者の作業手順などをAIに読み込ませ、非熟練者向け支援や遠隔制御に活用する提案などがみられた。

図表2 製造・保守現場の作業を支援するAIエージェント「Naivy」（日立製作所）



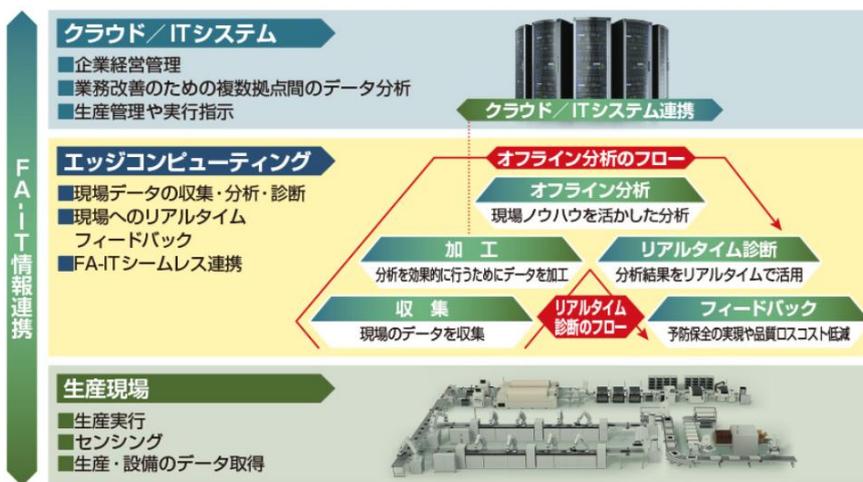
（出所）CEATEC2025にて当会撮影

- ・熟練者の技術・知識をAIに学習させて、非熟練者の作業を支援するAIエージェント。
- ・工場レイアウトや設備のデータ、熟練者の作業手順、過去のトラブル解決事例などを生成AIに学習させる。
- ・製造や保守の現場でトラブルや困り事が生じた場合、タブレットにメタバース空間を3Dで再現し、映像とチャットで対処方法を分かりやすく示す。
- ・「CEATEC AWARD」イノベーション部門賞を受賞。

【社会課題解決・価値創出】

- ・人手不足や熟練者不足対応として、ナレッジ化や技術継承、リモートによる複数現場管理の効率化、現場作業者の心理的負担の軽減などを図る。

図表3 エッジデバイスで動作する製造業向け言語モデル（三菱電機）



(出所) 三菱電機ホームページ

- ・当社 FA 事業部のデータを AI に学習させ、製造業に特化した言語モデルを開発し、エッジ AI に実装。
 - ・さらにマニュアルやセンシングデータなど個社データをエッジ AI に学習させる。
 - ・クラウドに接続せずとも、工場内など特定分野での AI 活用が可能になる。
- 【社会課題解決・価値創出】
- ・大規模言語モデル (LLM) の利用に必要な膨大な計算コストと電力消費量の削減
 - ・データプライバシーや機密情報管理の観点からのオンプレミスでの AI 利用ニーズ増加に対応。

図表4 製造業とゲームを掛け合わせたエンゲージメント向上の取組（三菱電機）



(出所) CEATEC2025 にて当会撮影

- ・各作業台に配置されたタブレット画面に作業者のアバターとレベル、生産台数とサイクルの情報を表示。作業を達成すればレベルアップし、アバターの変更と着替替えをゲーム感覚で楽しむことができる。当社名古屋製作所における'Fun Factory'の取り組み。
- 【社会課題解決・価値創出】
- ・仕事の成果や作業者の成長の可視化、働く楽しさやコミュニケーションの増加、監督者のデータに基づく評価・配置への貢献。
 - ・エンゲージメントを高め、ものづくり人材を安定的に確保して長く働いてもらう。

図表5 ピッキング作業者のもとに自動搬送する GTP 方式のシステム（シャープ）



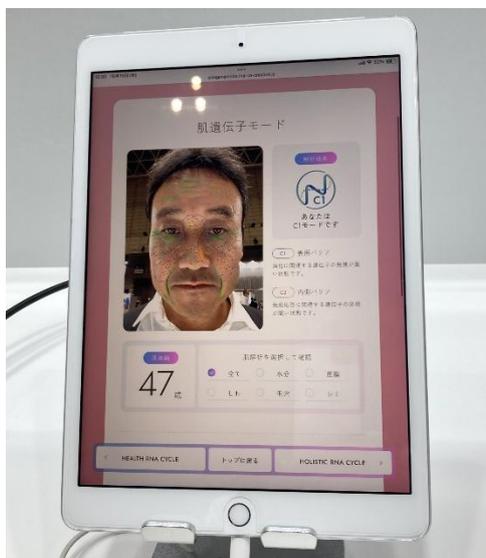
(出所) CEATEC2025 にて当会撮影

- ・既存の物流倉庫の設備を活用し、作業場所を大きく変えずに導入可能な GTP (Goods to Person) 方式の搬送システム。
 - ・人が通れる 900mm 幅で作業できるスリムな搬送ロボットが、人に代わり必要な荷物を集め、収納棚を作業者の前まで自動搬送し、ロボットから分離し収納棚ごと作業者に受け渡す。
- 【社会課題解決・価値創出】
- ・物流倉庫では人手不足が深刻で、DX やロボット活用による省人化・自動化ニーズが高まる
 - ・大掛かりな自動倉庫システムの導入は投資額が高いため、現状の倉庫で稼働を続けながら、自動化と重労働の軽減を図ることができる。

(3) 暮らしの相棒として AI を日常生活に溶け込ませた提案

CEATEC では日常生活の中に AI を溶け込ませ、個々人に最適な商品・サービスの提案やアドバイスの提供により、社会課題解決や価値創出につなげようとする提案も多くみられた。

図表 6 顔写真から肌遺伝子を判定し最適な化粧品を提案 (RNA 共創コンソーシアム)

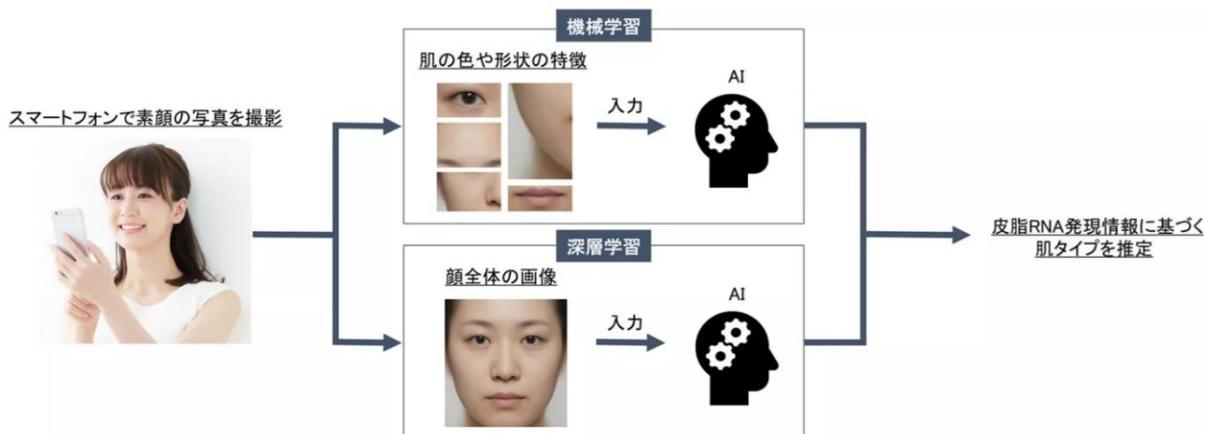


(出所) CEATEC2025 にて当会撮影

- ・ RNA は体調や食生活などの環境要因により日々変化し、肌や体の状態を知るのに有用。
- ・ 花王は、あぶらとりフィルムで採取した顔の皮脂から RNA を抽出・分析する技術を開発。約 1 万種の皮脂 RNA 発現情報を検出可能。名古屋大学発ベンチャーのヘルスケアシステムズ社を通じ、2024 年より受託分析サービスを開始。
- ・ 化粧品クチコミサイト「@cosme」を運営するアイスタイル社の会員から皮脂 RNA と画像情報を収集し、AI に学習させ、皮脂を顔から採取せずとも、顔写真から肌タイプ (肌遺伝子モード) や肌年齢を判定できる技術を開発。消費者に最適な化粧品のコンサルティング販売などへの活用を想定。
- ・ 「CEATEC AWARD 2025」コ・クリエイション (共創) 部門賞を受賞

【社会課題解決・価値創出】

- ・ 生活者にとって満足度の高いパーソナルな商品・サービス選択の実現
- ・ 産業を超えた共創によるビューティ&ヘルスケアの変革



(出所) 花王ホームページ

図表 7 視覚障がい者向けスマート白杖 (TDK×欧 WeWALK 社)



- ・ 白杖がスマホアプリと連動し、ChatGPT による音声アシスタントを提供。行きたい場所を白杖に話すと、AI が判断し音声や振動で安全に誘導してくれる。スマホはバッグなどに入れておけばよい。
- ・ 超音波センサーにより進行方向にある障がい物を検知。音声を認識する MEMS マイクロフォン、物体を検出する ToF センサー、スピーカーなども搭載。

【社会課題解決・価値創出】

- ・ 従来の白杖は路面や足元の障害物しか検知できないのに対し、スマート白杖は高い位置にある物体や木の枝なども検知でき、歩行の安全性が高まる。
- ・ より高度なモビリティを視覚障がい者に提供。

(出所) CEATEC2025 にて当会撮影

図表 8 エッジデバイスでのリアルタイム学習が可能な AI チップ (TDK×北大)



(出所) CEATEC2025 にて当会撮影

- ・時間的に変化する (時系列変化) 情報を低消費電力で高速に処理可能な計算モデルであるリザーブコンピューティング用の AI 半導体を北海道大学と共同で開発。
- ・じゃんけんを出し終わる前の指の動きを加速度センサーで計測して AI が事前学習した上で、個人差をリアルタイムで学習して勝つ手を出す「絶対に勝てないじゃんけん」
- 【社会課題解決・価値創出】
- ・クラウドとエッジ処理を併用することで、従来のディープラーニングやクラウド利用で生じる膨大な演算処理や電力消費を抑制。
- ・ゲームなどへの応用可能性。

図表 9 AI エージェントが最適なゴルフスウィングを提案 (富士通×AIGIA 社)

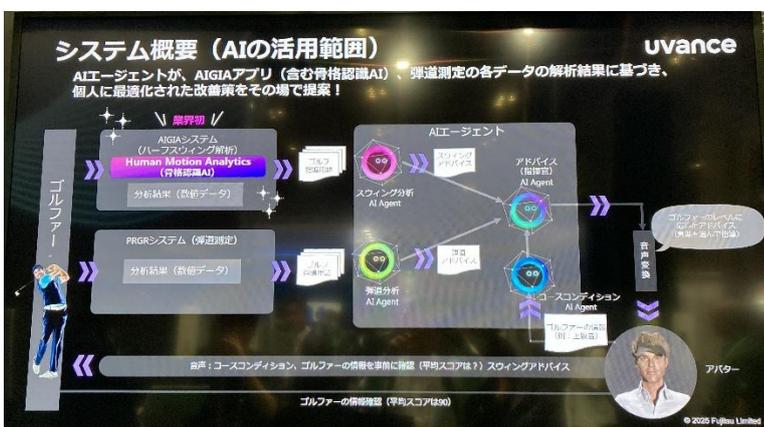


(出所) 富士通ホームページ

- ・富士通レディースの 18 番ホールグリーン前の垂直バンカーを再現。AIGIA 社のゴルフスウィング解析アプリと連携してショットを分析し、AI キャディからアドバイスを受け、バンカー脱出に挑戦する趣向の展示。
- ・約 4 百万回分のスウィングを AI が学習。骨格の動きによるスウィング分析データと弾道測定データを組み合わせ、AI エージェントが個人に最適なスウィングをアドバイス。

- 【社会課題解決・価値創出】
- ・複雑で高速な人の動きを認識し、高精度な分析を実現することで、スポーツやエンターテインメント、ヘルスケア、小売、製造など様々な分野で新たな付加価値の創出を目指す

- ・AI が人のエージェントとなる未来とは、AI が人に代わるのではなく人の能力を拡張するものと位置づけ。



(出所) CEATEC2025 にて当会撮影

(4) おわりに

CEATEC2025 の視察では、AI の処理能力の高さを示すだけでなく、AI を活用して社会課題の解決や価値創出に如何につなげるかを念頭に置いて、各社が知恵を絞った展示を行っていた点が印象に残った。公表情報の要約や画像生成といった一般用途での AI では、言語モデルの大規模化や AI 半導体の処理能力向上が差別化の軸であり、いずれも海外勢が先行している。

一方、個別領域、例えば、製造現場での作業支援や設備異常への対処といった場面で AI を活用するためには、個社のマニュアルや熟練者の知見など固有データを数多く学習させ、現場を熟知する AI を開発する必要がある、日本の製造業が強みを発揮する余地はありうるのではなからうか。また、暮らしの様々な場面での AI 活用はアイディア勝負の側面があり、日本ならではのきめ細かなホスピタリティを人手とデータ駆動型の組み合わせで提供し、AI 分野で巻き返しを図るといった方向性もありうるかもしれない。

IoT やビッグデータは 2010 年代から注目されてきたが、昨今、AI が急速に普及する中で、データを資源にすることの意味が変わってきたという趣旨の講演が CEATEC でなされていた。それによれば、AI 実用化前のデータは専門家による分析の材料として存在し、人間の意思決定を補助するためのものであったが、AI 実用化後のデータは AI の燃料となり、人が介在せずともデータが自律的に価値を創出する時代に変わりつつあるという。

とはいえ、AI エージェントが人を代替しうる領域はまだ限定的であり、専門家でなくても誰もが AI を身近に利用して自身の能力を高度化できる可能性もある。いずれにせよ、AI の進化のスピードを踏まえると、AI と人の関係は絶え間なく変化していくものとみられ、安全性やリスク、倫理面なども含め、幅広い視点から AI の活用について議論を深めていく必要がある。

図表 10 AI が変えた、データを「資源」にするということの意味

AI実用化前は： 「情報」として活用すること		AI実用化後は： 「知識」として付加価値を生むこと
分析の材料として存在： <small>「専門家」がデータを収集・蓄積し、統計分析やマーケティングに活用する</small>	データそのものの 存在価値	AIの燃料として存在： <small>機械学習モデルが学習・推論するための原料</small>
人間の意思決定を補助： <small>人間がデータを読み解き、戦略や政策の根拠として使う</small>		自律的に価値創出： <small>人間を介在させずAIがデータを自動で処理・判断</small>
資産として蓄積される「ストック」に価値： <small>CRM（顧客管理）やPOS（販売履歴）などのための情報資源となる</small>		リアルタイムで処理される「フロー」に価値： <small>IoTやセンサーからのデータをAIが即座に処理・活用するプロセスが前提</small>
人間が使うための道具	データの位置づけ	AIが使うためのエネルギー源
データを活用する専門家が必要	価値創出の前提	人間の介在なく自律的に価値が生まれる
人間中心の社会・産業 <small>データは人間に「使われるもの」 保存・分析対象であり、「モノ」としての静的な存在</small>	データをめぐる パラダイムシフト	AI中心・データ駆動型の社会・産業 <small>データはそれ自体が「価値を生み出すもの」 「コト」として状況によりアクションを生む動的な存在</small>

(出所) IPA (情報処理推進機構) 理事長 兼 デジタルアーキテクチャ・デザインセンター長
齊藤裕氏講演資料

以上